

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

<全文>世界の漢字教育：日本語漢字をまなぶ：  
国立国語研究所第8回NINJALフォーラム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00000933">https://doi.org/10.15084/00000933</a>

# 世界の漢字教育

## 日本語漢字をまなぶ

sky

そら

空

tree

き

木

**基調講演** 日本語教育における漢字学習の支援方法  
加納 千恵子

**報告** 台湾の日本語教育における漢字学習  
林 立萍

**報告** フィリピンにおける漢字教育の現状  
ーフィリピン人日本語学習者と教師の  
漢字学習ビリーフとストラテジー使用についてー  
フランチェスカ・ヴェントゥーラ

**報告** 世界の文字体系から見た漢字と  
インドにおける漢字教育・学習の取り組み  
ブラシャント・パルデシ

**報告** キルギスの漢字教材『漢字物語』  
ガリーナ・ヴォロビヨワ

**報告** 漢字を習うか漢語を習うか  
ー語彙に基づいた漢字教育  
アルド・トリーニ

**コメント**  
濱川 祐紀代

**ディスカッション**  
パネリスト・加納 千恵子、林 立萍、フランチェスカ・  
ヴェントゥーラ、ブラシャント・パルデシ、ガリーナ・  
ヴォロビヨワ、アルド・トリーニ、濱川 祐紀代  
司会・高田 智和

flower

はな

花



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

# 世界の漢字教育

## 日本語漢字をまなぶ

日時：平成26年9月21日[日] 12:45—17:15

会場：一橋大学一橋講堂〈学術総合センター2階〉

開会挨拶	影山 太郎	1
趣旨説明	高田 智和	4
基調講演 日本語教育における漢字学習の支援方法	加納 千恵子	5
報告 台湾の日本語教育における漢字学習	林立萍	17
報告 フィリピンにおける漢字教育の現状 — フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習ビリーフとストラテジー使用について —	フランチェスカ・ヴェントウーラ	26
報告 世界の文字体系から見た漢字とインドにおける漢字教育・学習の取り組み	ブラシャント・パルデシ	35
報告 キルギスの漢字教材『漢字物語』	ガリーナ・ヴオロビヨワ	48
報告 漢字を習うか漢語を習うか—語彙に基づいた漢字教育—	アルド・トリニー	58
コメント	濱川 祐紀代	64
ディスカッション パネリスト：加納 千恵子、林立萍、フランチェスカ・ヴェントウーラ、ブラシャント・パルデシ ガリーナ・ヴオロビヨワ、アルド・トリニー、濱川 祐紀代 司会：高田 智和	西原 鈴子	79
閉会挨拶		

●主催●●●●

●共催●●●●

●後援●●●●



本日は第八回目のNINJALフォーラムです。NINJALとは、国立国語研究所の英語名(National Institute for Japanese Language and Linguistics)に対する略称です。本当にたくさんの方にお越しいただき、ありがとうございます。五百名以上の方々から参加申し込みがございましたが、この会場のキャパシティが限られておりますので、それ以上の方は残念ながらお断りしなければならぬという、担当者もうれしい悲鳴をあげる状態でございます。本日は『世界の漢字教育』というテーマですので、こちらから拝見しましても、お客様の顔ぶれが、従来とはちよつと違って外国の方々、大学院生の方々などバラエティがあるように思います。

国立国語研究所は昭和二十三年に創設されましたが、二〇〇九年十月一日に、全国の国公立大学と一緒に共同研究を行う大学共同利用機関という組織に鞍替えをしました。来週の十月一日がちょうど発足五周年になります。このように皆様になくさん来ていただいておりますように感じます。

また、本日のフォーラムは、これまでにない特別なことといたしまして、国際交流基金日本語国際センターと共催、そしてJSL漢字学習研究会から後援という、力強いバックアップをいただいております。ありがとうございます。

NINJALフォーラムで文字のことを取り上げるのは、二回目です。最初は二〇一一年の第四回フォーラムで、漢字には限定しませんでした。「日本語文字表記の難しさとおもしろさ」というテーマで開催しました。そのときの様子は、研究所のHPで閲覧していただけるだけでなく自由にダウンロードもできるようになっております。本日のフォーラムの様子もHPで公開したいと思っています。

なお、二〇一一年の第四回フォーラムは、さらに内容を充実させ、わが研究所の高田智和、横山詔一の二名の教員の編集で、『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』として溪流社から今年の春に出版いたしました。是非ご覧ください。

さて、漢字という問題は、どのフォーラムに限らず少しはでてくるテーマです。今年春の第七回フォーラム『近代

の日本語はこうしてできた』のときにもお話ししましたように、明治時代から大正、昭和にかけて漢字が野放図に爆発的に増加しました。そのために、政治的にも社会的にも非常に混乱が起りました。戦後すぐにGHQの依頼で日本にやってきた米国教育使節団も、「漢字はぜんぶ捨ててしまつてローマ字にせよ」という報告までしたくらいです。

私は団塊の世代ということで、その当時の紛糾をまだ引きずっています。私の大学生のときの言語学の先生は強烈なローマ字論者で、先生の書かれた教科書は丸ごとぜんぶローマ字でしたし、私たち学生に対しても、「試験はすべてローマ字で解答すること」なんて言われました。それは言語学の授業でしたから、まだよかったです。ローマ字で書くことは、どこからどこまでが一つのつながりで、どこで切れるかという、言葉の分析としては非常に有効なので大変勉強になりました。しかし、もし日本語が日常の新聞、テレビ放送のテロップ、携帯メール、その他すべてローマ字となると、とても読みにくいことになります。

文字というのは、人間が言葉をしゃべり始めてからずっと後になって人工的につくられたものですから、言語学の学問研究としてはあまり中心には置かれていません。漢字はどんどん変わっていきますし、手書きのときはこを撥ねるのか止めるのかいろいろ悩むことがあります。そのようなことはあまり研究されません。しかし、私自身も語彙の研究をやっているのですが、漢字には意味がこもっている。同じ「なく」でも、「鳴く」は虫や鳥などが声を出して鳴くことで、口という偏で音声を表していますよね。そして、「泣く」は、シ偏ですから人間が涙を出すということを表しています。漢字は西洋のアルファベットとは違って意味を含んでいることが、だんだん言語学のほうでも認識されるようになってきました。つい最近、イギリス言語学会の *Journal of Linguistics* という言語学専門誌にも日本人が投稿しています。漢字はこれまで軽視されてきたが、本当は言語の非常に重要な基礎であるということが一流の国際誌に発表されたわけです。

専門的な研究だけでなく、日常の生活でも皆さんが銀行に口座を開設するとか、市役所、区役所にいって戸籍謄本等を請求するときなど、ちょっとしたでも漢字が間違っていたら受付けてくれないようなことがあると思います。公の機関だけでなく、私たちが普段書く文章でも漢字の「正しさ」が問題になります。特に私たちの名前については、たとえば、「さいとうさんの「さい」には「斎藤」「齊藤」「齋藤」のようにたくさんさんの異字体があります。皆様のなかにも「さいとうさん」がおられるかもしれませんが、さいとうさんは、「私の『さい』はこれだ」と誇りをもっておられます。私自身の影山の影だつて、ある程度誇りをもっています。ときどき手紙やメールでチョンチョンチョン

のない「景」を書いてくる人がいますが、ちょっとムカツときますね。そのように、漢字は、個人レベル、学問レベル、また書道など芸術のレベル、さまざまな広がりがあります。私たち日本人が普段使っている場合でも、たくさん of やつかいな問題があるわけで、外国人の眼にはどのように映っているのでしょうか。今日はこれから、外国人が漢字をどのようにして身につけるのかという、非常に興味のあるテーマで五つの講演を用意しています。

異なる母語をもつ五人の外国人の方々には報告していただきますので、お楽しみください。今日はいつも少し終わりが遅く、五時すぎになりますが、最後まで皆さんおとどまりくださいますようお願い申し上げます。これで開会の挨拶とさせていただきます。



第二言語として日本語を学ぶ場合、さまざまな課題があります。大きな課題の一つに、漢字の習得があります。特に、母語表記に漢字を使っていない非漢字圏の学習者にとっては非常に大きな課題となります。表音文字だけ使っているわけですから、数が多く、一文字の読み方が複数あり、字の形も複雑な漢字を、どうやって身につけるのが大きな課題です。

このことは漢字圏の学習者にとっても問題となります。同じ漢字だから大丈夫だろうと思うかもしれませんが、中国語、韓国語、日本語と言語が異なれば、同じ文字であっても表わすことば(単語)が変わるため、大きな課題となります。

本フォーラムでは五人の報告者をお招きし、かつて日本語学習者として漢字を学び、いま現在、日本語教師として日本語の漢字を指導している経験から、母語の違いによって日本語の漢字との向き合い方が異なるということを会場の皆様にお伝えします。そして、学習法の提案、実践方法、第二言語習得のなかでの漢字教育の問題点について議論します。





# 日本語教育における漢字学習の支援方法

加納 千恵子

本日はいろいろな国や地域の方々から、世界の漢字教育のお話を伺えることを私自身も楽しみにしてまいりました。その前座として、これまで長年漢字を教えてきた経験から、日本語教育において漢字を学習する人たちをどのような視点で支援していったらよいかについてお話しします。漢字は難しいとよくいわれますが、じつは非常に面白い、漢字があるから日本語を勉強するのが好きという人たちもいますので、プラスの面とマイナスの面、面白さと難しさの両面から考えてみたいと思います。よろしくお願ひします。今日は時間も限られています。今日は時間も限られています。今日は時間も限られています。

面から考えてみたいと思います。よろしくお願ひします。今日は時間も限られています。今日は時間も限られています。今日は時間も限られています。

たとえば、エレベーターにのって  
こちらに向かって走って来る人がいたら……



図1

同じ状況で  
表示が漢字だったら……



図2

この会場には、日本人ばかりでなくいろいろな国の方がおられますが、日本でエレベーターに乗っていて、こちらに向かって走ってくる人がいたら、図1のどっちのボタンを押したらいいでしょうか。けっこう迷いますね。開けてあげようと思って間違ったほうを押して、閉めたりすることもあります。これが漢字表示だったらどうでしょう(図2)。漢

とのディスカッション等につなげていただければと思っています。

## はじめに—学習者にとって漢字とは

加納 千恵子(かのう ちえこ)

筑波大学教授。留学生センターおよび大学院人文社会科学  
研究科国際日本研究専攻担当。著書は、『基本漢字500 Basic  
Kanji Book』vol.1&2(共著、凡人社、1989年)、『漢字100PLUS  
Intermediate KanjiBook』vol.1&2(共著、凡人社、1993年/2003  
年)、『日本語教育叢書つくる 漢字教材を作る』(共著、スリーエ  
ネットワーク、2011年)など。





字だった時代もありました。日本人にとっては、漢字のほうが間違えないというか、確実に開けてあげられると思います。このように、字を見ることで意味がわかるということが、そもそも非漢字圏からきている学習者には、最初非常にわかりにくいことではないかと思っています。私も長く日本語を教えていて、学習者が疑問に思うこととして、「形を見て意味がわかるって、どういうこと？」ということがあります。もちろん、象形文字と呼ばれている「山」とか「川」は、形を見れば意味はなんとなくわかります。でも、経済の「経」や「済」を見て意味がわかるでしょうか。形と意味に結びつきがあるのか、という疑問はけっこうあるようです。

また、たとえば、「木、気、季、基、記、紀、期、貴、帰、器、機……、これらぜんぶ「き」と読むのか」という疑問もあります。

さきほど影山所長のお話にもありましたが、音声でコミュニケーションをとっていて、あとから文字ができました。そのため、音声を映すものが文字だと、表音文字を使っている世界のほとんどの国では思われていますので、「き」という音を表すのにこんなにたくさんの方があるのはどういうことなのか疑問となるわけです。

そして、平仮名もあるし片仮名もあるのに、なんでまた漢字まで学習しなければならないのか。

世界の言語のなかで、だいたい一つの言語は一種類の文字体系を使っていることが多く、平仮名と片仮名と漢字という三種類を使うことが非常にわかりにくいことなので、これも説明しなければいけないことです。

そして、ご存じのように、初級のころに習うやさしい漢字ほど読み

方がたくさんあるわけです。音読みと訓読みがあることはだいたい知られていますが、「生」は音読みでも「せい」「しょう」と読んだりします。訓読みも、「生きる」「生まれる」「生える」「生ビール」とか「生そば」の「き」とか、どうしてそんなにいっぱいあるのか(図3)。

「鬱」は常用漢字になりましたが、こんな形をどうやって覚えるのかという、非常に素朴な疑問もあります。これは日本人でもちゃんと書ける人はそういないわけですから。

そもそも、常用漢字は二、三六字あると聞いて、文字なのになぜこんなに数があるのかという疑問があります。これはあとでもできますが、漢字は表語文字といわれるように、ことばを表しているもので、文字というより「語」です。そうすると、語彙の数が二千ほどあるということは、どこの言語でもそんなに驚くべきことではありません。初級で千五百語とか二千語くらい勉強することはヨーロッパ言語でも普通です。文字だと思っから多いのであって、ことばだと思えばそんなに多くはありません。平仮名と片仮名を習ったあとに出てくるので、同じくらいかなあと思って、五十字を超えてもまだ続く漢字学習で一〇〇字くらいになると、そろそろ雲行きが怪しくなっ



図3 学習者にとって、漢字とは？

て、いつ終わるのだろうか、ほんとうに終わるのだろうか、ネバーエ  
ンディングのように思うわけです。

## 漢字の四つの情報

学習者からのいろいろな疑問、不安を聞いていると、日本人が漢字を勉強するのはかなり違うことがわかります。日本人は、漢字を習う段階では、読みと意味、それがどういうときに使うことばなのか、母語ですからもうすでにわかっている状況です。小学校一年生から漢字の学習が始まりますから、漢字の学習は、**図4**に示す、読みと意味のわかっていることばに形をのせる文字学習になるわけです。それでも小学校の六年間をかけて教育漢字千六字を覚えるのです。母語の人がそんなに時間をかけて勉強することを、外国人が一年や二年で勉強できるのか。

そして、外国人にとっては、漢字の読みと意味の連合と、それが文章中でどのように使われるのか、どんな文脈で、どんな場面で使われるのかも、新しいことであることが多くなっています。それが済んでいないと、すんなりと字形との連合は進みません。字形そのものも難しいといわれますが、漢字の読み、意味、字

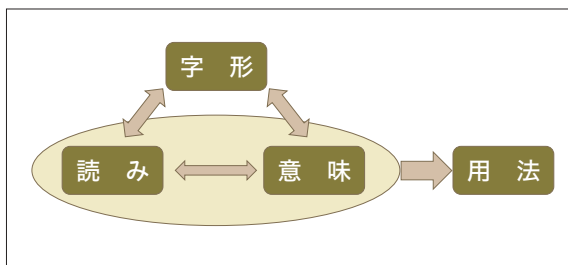


図4 漢字の4つの情報

- ・表音文字、表語文字
- ・ひらがな、カタカナ、漢字の役割  
→ 日本語の表記システム
- ・象形文字、指事文字、会意文字、形声文字
- ・音読み、訓読み、複数の読み
- ・部首、音符、構成要素
- ・対義字、類義字、意味ネットワーク

図5 漢字とは？

形、用法という四つの情報のなかで、知らないことばかりを組み合わせて覚えなければいけない難しさがあるわけです。日本人の子どもたちも漢字習得に非常に時間がかかることから、国語で行われている漢字教育をはじめのころは真似して外国人に教えていることが多かったのですが、それではやはりうまくいきません。

さきほど司会の高田先生から、漢字圏の中国の人でも、日本とことばが違うので日本の漢字は難しいという話がありました。じつは中国の人だったら漢字の形を見れば意味は母語で知っているわけですからすぐわかるわけです。訓読みはまったくわからないと思いますが、音読みであれば、ある一定の法則で近い発音など多少類推ができます。

でも、それを日本語という言語のなかで、どんな品詞で、どんな場面で、どんなことばと一緒に使うのかという用法に関しては、まったくわからないわけです。特に動詞や形容詞の送り仮名などは、中国にはないので、そういった用法に気をつけなければならぬわけで、漢字に関しては、意味がわかることと使えることはまったく違います。

まとめますと**(図5)**、表音文字になれている人たちに、表語文字をどうやって理解してもらったらよいか。平仮名、片仮名、漢字はどれも

必要なもので、日本語の表記システムのなかで、どんな役割を担っているかということもオリエンテーションしていかねばなりません。漢字と一言にいつても、象形文字である漢字と、指事漢字、会意文字、形声文字では性質が違います。漢字を見れば意味がわかります、形を見れば意味がわかりますといえるのは最初だけです。それは常用漢字全体のなかで一割ほどしかありません。漢字は形を見れば意味がわかるといわれて、山とか川を見て面白いなあとと思って学習をはじめた人たちは、途中でだまされたような気になるというか、形を見てもぜんぜん意味がわからない漢字がいっぱい出てくるわけです。特に形声文字が占めている割合が高いですから、そういうものは教え方のストラテジー、方略も変える必要があります。ただ漢字という一つのことばで済ませてしまうと、学習者は思いこみで、途中から学習ストラテジーを変えることができない場合もあります。

音読みと訓読みがあるのは、日本が中国の文字を借用したという歴史的な経緯からしかたがないことですが、よく使われる漢字ほど訓読みも増えていきます。音読みも中国からはいってくる時代時代の方言の発音に近くなっているのです、呉音とか唐音とか違う読み方をもっている漢字があります。また、さきほどの「鬱」という字ほどではなくても複雑な字体になると、その部首は何なのか、その漢字の音読みを類推するためのヒントとなる音符は何なのか、複雑な形だけれど構成要素に分けていくと共通の部分かなりあるというようなことをわかってもらわないといけないわけです。

最後は、漢字は文字というよりことばであるということからすると、どの国の言語でも、対義概念、類義概念のことばがあり、また、上位

語があつて、その下にたくさん下位の意味のことばがつかるといった意味ネットワークをもっています。それをうまく使つて漢字を勉強する、または漢字をことばの勉強に活かしていけないかといったことを考へて、日本語教育のなかでやっていかなければいけないと思います。

### 情報のもつ面白さと難しさ

このような漢字がもつ情報一つひとつに面白さと難しさがあると考え、どこが面白く、どこが難しいのでしょうか。なぜ、形が難しいのかというと、皆さんよくご存じのように、点画が多く、書き順も「右」と「左」で違ふとか、「必」のように、なぜその順番で書かなければならないのかよくわからない筆順の漢字もあります(図6)。また、非常に似ている字形があります。たとえば、「土」と「土」、「待」と「持」、見慣れないとみんな同じに見えます。

以上のようなところが難しいといわれていますが、逆にアルファベットやほかの国のシンプルな文字の形にはない、非常に変わった形をしているので、そこから意味のイメージが膨らみやすいとか、共通の構成要素を探したり、その構成要素もどこに現れるかわからない神出鬼没なほどバラバラなわけではなく、ある一定の構造化があるようなことに気がつく、いわば文法に近いような面白さを成人の学習者

- ★点画が多く、形が複雑
- ★書き順が複雑・不統一
- ★類似形が多くまぎらわしい
- ★形がユニークでイメージが膨らむ
- ★共通の構成要素を持つ
- ★構成要素の配置には構造化がある

図6 形が難しい！ 形が面白い！

- ★1字に複数の読みが対応 (音読みと訓読み)
- ★類似音が多い → 形声文字の音符
- ★熟語の読み方が複雑 (重箱読み／湯桶読み)
- ★連濁や促音化など → 音変化のルール
- ★特殊な読み方

図7 読みが難しい！ 読みが面白い？

- ★象形文字、指事文字、会意文字は数が限られている
- ★中心義と派生義がある
- ★階層構造を持つ意味的概念ネットワーク
  - ☆対義・反義概念
  - ☆類義概念
  - ☆上位概念・下位概念

図8 意味が難しい？ 意味が面白い！

- ★造語性 (造語のルールと語構成)
- ★送り仮名のつけ方
- ★品詞性
- ★文中での共起性 (コロケーション)
- ★文体・ジャンルなど使用上の制約
- ★日本語の表記システムにおける役割

図9 漢字の用法は、語彙・文法といっしょに！

一緒に覚えていくしかありません。単語だけで覚えていたのでは覚えられないものです(図9)。いままでの漢字教育は、日本語の文法と切り離れたところで漢字だけを教えようとしたり、ことばだけを覚えさせようとしたりするので、いくら覚えてもすぐ忘れてしまったり、使えるようにならないといった問題もあるのではないかと思います。語彙として漢字の使い方を覚えることで日本語の文法も覚えられます。送り仮名のつけ方を覚えることで、どんな種類の動詞なのか見分けられるようになるとか、相互に勉強になることがあると思います。

語彙の数だと思えば、数の多さはしかたがないのです。しかし、二十六字とか五十字といった数の文

だと見つけることができるのではないかと思います。読みは難しいですね(図7)。読みに面白いことがあるかといわれると、あまりあるとは言えません。ここがいま漢字教育で一番遅れているところです。漢字を覚えるときの方略、ストラテジー研究でも、形の再生や意味との連合のところは非常に進んでいます、どのような読みなのかを覚えるところの研究はあまり進んでいません。歴史的にこうだからということしかありません。しいていえば、形声文字の音符をもう少しわかりやすく教えるとか、連濁とか促音化に関しては、一種の文法のような音変化のルールを教えながら漢字を教えるようなことが、多少は面白いかなと思います。でも、あまり面白くはないですね。

意味は、あまり難しくはありません(図8)。どこの国でもことばには意味があります。でも、形を見ると意味がわかるような漢字は数が限られているので、そのことを知らない、全部同じ漢字一色と思うと、確かに迷路にはいり込んでしまう可能性があります。これは難しいというより、教える側がリードしていかないといいと思います。面白さからいえば、どこの国のことばでもあるような、こういったものを頭のなかでいろいろ覚えていって、文を作ったり、読んだり、書いたりすることで意味がわかれば面白さもどんどん広がっていくことは、漢字に限られたことではありません。どの外国語を習うときも同じだと思います。

用法は、漢字の問題というより、語彙の問題なので、文法、文脈と

字しか知らない人たちに、いきなり「漢字ってどんどん出てくるけど、いったい何字覚えればいいのか」と聞かれて、「とりあえず二千字かな」とか答えると、シヨックなわけです。

私のかつての上司でもあり同僚でもあったドイツ人のカイザー先生が、まず、「漢字辞典で一番大きい『大漢和辞典』には五万字ある」といえるという提言をしていました。あまりにも天文学的な数字なので、シヨックを通してみんな嘩然とします。そんなのが文字であるはずがない。やはり文字ではなくて語なのだという、一つのシヨック療法だと思います。そうして、「常用漢字は二千字ほどです」と。最初に二千字というシヨックが大きいのですが、五万字のあとに二千字といわれると、「まあ、そうか」、少し妥協しようかなというような気になるかもしれません。

さらに、国立国語研究所の一九七六年にでた調査報告(注1)で、新聞三紙によく使われている使用頻度の高い千字ほどの漢字を知っていれば、新聞の約九〇パーセントをカバーするという結果がでています。また、使用頻度の高い五百字を知っていれば八〇パーセント近くがカバーされるという結果でした。これは、筑波大学でいま使っている教科書で、基本漢字として五百字を選定するヒントになりました。五万字から出発して、長期目標は二千字ですが、短期目標として、初級であればとりあえず五百字というように、だんだんバーゲンしていくと、学習者もちょっとやる気になってくれるかもしれません。これは一種の誤魔化しですが、しかたのないことなので、心理的に誤魔化しても、やってもいいと思います。

## 漢字学習の支援

結局、漢字は、本人が覚えなければ、先生が無理矢理、頭に入れることはできません。自律学習です。それがうまくいくように、どうやってサポートするかについて、いくつかのヒントがあります。たとえば、記憶を忘れにくくしたり、記憶を促進したりするためのストーリーを作る試みがいくつかあります。

図10は、漢字教材を作る本(注2)に紹介した、漢字教材・学習法の九つのアプローチです。外国人学習者、非漢字圏学習者、漢字圏学習者といっても、個人個人によって認知スタイル、好みが違います。初等教育や中等教育でどんな覚え方をしてきたか、好きな方法や、合っていると思う方法、やりたくない方法とかがありますので、これが一番というのを一つに絞ることは難しいです。たとえば、ストーリーを作るにしても、武部良明先生(注3)がなさったように、漢字の字源ではなく、「学」という字であれば、片仮名の「ツ」と「ワ」と「子」に分解して、図11のようなストーリーを作ってもいいのではないのでしょうか。旧字体の「學」を知らない学習者にはこのほうがわかりやすいというようなことを提唱されました。

- |        |                  |
|--------|------------------|
| <字 形>  | (1) 字源中心のアプローチ   |
|        | (2) 字形構造中心       |
| <読 み>  | (3) 音符中心         |
| <記憶術>  | (4) イメージ中心       |
|        | (5) ストーリー中心      |
|        | (6) 唱えことば中心      |
| <意味用法> | (7) 意味・用法中心      |
|        | (8) 使用場面中心       |
| <その他>  | (9) 生素材による自律的学習法 |

図10 漢字教材・学習法のアプローチ  
(加納ほか, 2011)



# 学 ツ+ワ+子

「ツ」は「かざり」、「ワ」は「ほうし」で、「子」は「こども」です。「こども」が「ほうし」をかぶって「がっこう」へいきます。

「学」のいみは、べんきょうすることです。

(武部良明 1993『漢字はむずかしくない』)

図11 字形構造中心のストーリー：漢字の構成要素

## 音符 交 コウ

**交** コウ まじわる  
**効** コウ ききめ、てがら  
**郊** コウ 都の外郭  
**校** コウ・キョウ 学校、しらべる

**絞** コウ しほる、しめる  
**咬** コウ かむ  
**狡** コウ ずるい  
**較** カク・コウ くらべる

(山本康喬 2012『漢字音符字典』東京堂出版)

図12 音符中心の整理：形声文字の音符を利用する

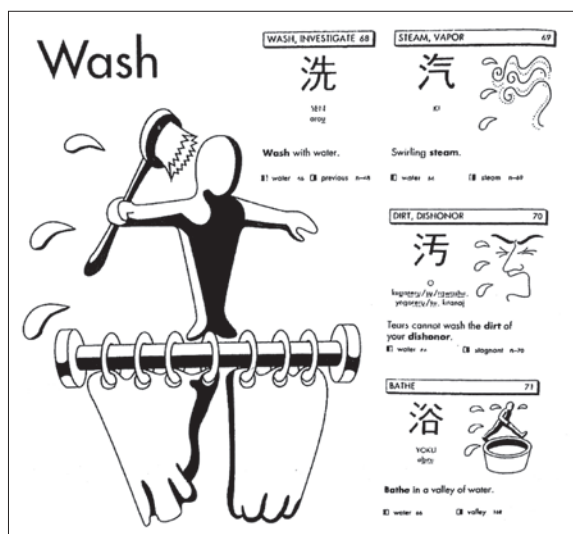


図13 漢字の字形のイメージをイラスト化 (Rowley, 1992)

図12は、日本人向けの『漢字音符字典』(注4)です。古くはイギリスでタイトルが『The Study of Kanji』(注5)という本で、はじめて形声文字の音符という観点から漢字を整理しました。イギリスではいまだにけっこう支持されている本です。

ハワイで出版されたRowleyの本(注6)では字源は無視して、漢字の字形のイメージをイラスト化しています。「洗」という字(図13)は、水滴の部分が「シ」であるのは字源に即していますが、シャワーブラシをもっている人がカーテンの後ろで浴びているような絵です。じゃあ先生の「先」はどう説明するのかというような問題もでてくると思いますが、イメージがとてもわかりやすく、見るだけで楽しい。こ

やって覚えるのが好きという学習者もいます。

それから、あとで登壇されるガリーナ先生の『漢字物語』(注7)もそうですし、ボイクマン先生たちの『ストーリーで覚える漢字300』(注8)、古くはHeisig先生ご自身が覚えたときの漢字の意味と形をむすびつけるストーリーを作る方法を学習者と共有しようとして出版された『Remembering the Kanji』(注9)という本もあります(図14)。

Heisig先生の本は覚えさせるといふより自分たちでストーリーを作って覚えようということだと思いますが、このような試みも非漢字圏学習者を対象に作られてきました。

また、日本人は五七五のリズムが好きなので、唱えことばで覚える

ことが、小学生向けの教材(注10)には数多くあります(図15)。外国人学習者にとっては、日本人の小学生向けのものは語彙がちょっと難しすぎるので、そこを工夫すれば、五七五のリズムは一種の日本の文化でもありますので、それに慣れ親しむこともできると思います。図15のように、下に行く道の左にエアポートのエがあるほうが「左」、上に行く道の右にロータリーの口があるほうが「右」と覚える方法もあります。ただ、上に行くか下に行くか間違えると反対になってしまうので問題なのですが、このようにやさしい語彙、外国人学習者が初めてのころに習って知っているようなことばを使って、唱えことばによる記憶術を作っていくようなことも、万人に受けるとは思いますが、好きな学生たちはいると思います。

なんとといっても漢字は文化です。古い伝統的な文

化という意味だけではありません。今の若者たちが好きなポップカルチャーのなかにも、Tシャツに印刷される漢字などは非常に興味をひきやすいので、プラスのイメージを活かしていくことで、難しいという印象から、面白いという印象に変えていったらどうかと思えます。漢字といえば、複雑で難しくて古いというのが古いイメージでした。いまは面白くて、不思議で、価値がありそうだともいえると思います。アメリカやメキシコで勉強している学生たちが、どうしてアラビア語とかインドネシア語を選ばないで日本語を選んだのかというと、あのわけのわからない字を自分は知っているという優越感というか、他

## 東 木 + 日 = 東 木 9 日 41

ひがし・とう 東 ひがし 東口 ひがしぐち

東京 とうきょう 関東 かんとう

You can see the sun behind a tree in the east.

Matahari di sebelah timur nampak dibalik pohon.

インドネシア語・タイ語・ベトナム語

(ボイクマン総子ほか 2008『ストーリーで覚える漢字300』

くろしお出版)

図14 学習者の母語でストーリーを作る

(Heisig, 1977、ガリーナほか, 2005、ボイクマンほか, 2008)



図15 唱えことばによる記憶術(浜西, 1983)

の人が知らないことを自分は知っているということらしいです。なんか価値がありそうな不可思議なものというのは、プラスのイメージにもなりうるものだと思います。

それから、漢字は、わかるだけではだめで、使えないとだめ、書けないとだめだといわれます。しかし、日本人だって読めるけど書けない漢字がいっぱいあります。特に、いまはワープロで書く時代になりましたから、手で書けといわれると、急に自信がなくなります。ここ線が二本だったか一本だったかとか、点があつたかなかったか迷うところがあるわけです。時代とともに、読めること〓書けることではなく



図 16 違いがわかる？

図17 違いがわかる？

図18 違いがわかる？

図 19 違いがわかる？

なっています。外国人の学習者にはかり、読める漢字は書けなければいけませんというのは不公平だと思います。わかればいい漢字と、使えないといけない漢字は分けて覚えてたらいと思います。

よく学生にやるのですが、漢字の学習をこれから始めようとしている人たちに図16を見せて、「なかに一個違う字がはいっているんだけど、わかる？」というと、眼のいい子は探せるんですね(図17)。私なんかは老眼鏡がないと見えないので、日本人でも探せるとは限りませんが、このようなことで自信をつけてもらうこともできます。

漢字がGOという形に並んでいる、ちょっととしたお遊びです。まだ漢字を見慣れていないときにやったらどうでしょうか。わけのわからなないグチャグチャとしたみんな同じに見えるというようなマイナスのイメージではなく、それを逆手にとってクイズにするとか遊びにすると、若い人のよい人たちは、意味もわからないし読めませんが、見つければるんですね。そのとき、「いやー、よくできますねー」「あなたは日本語の漢字を勉強する素質があるかも」とかいうと、けっこうみんな

喜びます。「もっと難しいのをだせ」とか、自分たちで問題を作るとかいいだします。難しいといっているのかもしれませんが、楽しいこともちよっとは考えたらどうかと思います。そのためには、漢字を他の技能の練習や勉強と切り離して、「これはあなたのほうで宿題としてやりなさい」というのではなく、もっと他の活動とコラボレーションしたらいいんじゃないかと思います。

読み物を少し面白いものにするのは、よく考えられることです。習った漢字を使ってポスターを作らせたり、自分たちで物語を書かせたり、紙芝居なんかさせると、けっこう面白いものを作ります(図20)。

漢字は、読み書きに使うと限定されがちですが、聞きながら漢字を探すのも大事です。これは、話を聞きながらノートをとったり、話を聞きながらに作業をしたりという、母語話者が普通にやっていることを、外国人学習者にも、学習のなかでやらせたらどうかというところからはじまっています。もちろん、漢字を使って学習者にポスターセッションで話させるようなことも、自分はどうしてこの漢字が好きかみたいな話を五分で発表させるみたいなことをさせると、漢字を覚えるだけではなくて、日本語の話す力もつくということがあります。

最終的には、二千もある字を一つひとつ記憶するところまでは教室では保証できませんので、自律学習に任せるしかないところがあります。それにしても、どんな漢字を覚えるのかは学習者自身に決めさせる。いまは携帯で町のサインとか看板なんか写真が撮れますので、そのようなものを撮ってきてクラスでお互いにシェアする。あるいは、初級も後半くらいになって日本語が少し話せるようになったら、先生

がいつも漢字の導入をするのではなく、交代で導入させると、非常に面白い工夫をしてくれる学習者もいて、その漢字はみんなよく覚えていたりします。先生がうまく教えられないことでも、学習者どうしならうまく教えられる場合もあるようです。これはメキシコなどでは実践されているそうです。

テストも、期末テストのような成績にかかわることは先生がやらないと責任上いけないかもしれませんが、日々のクイズとか小テストはお互いに作らせて採点も自分たちでやらせると、むしろ学習者の方が学習者には厳しいんです。先生のほうが甘い。ここが撥ねていないというようなことをいうので、たまにやらせてみると面白いと思います。

### 漢字学習支援における教師の役割

そんなことをいったら教師はなにをすることがないじゃないかといわれるかもしれませんが、そんなことはありません。学習の交通整理をしてあげるのは非常に重要です。いまいったような面白い、楽しいようなやり方で漢字に親しませることは、地域で勉強している人たちにもきっかけとしてよいことです。そして、本が読めるようになり

#### ☆面白い素材の読み物

→ 漫画、テレビCM、広告、ジョーク集

☆習った漢字でポスターを作る、物語を書く

☆聞きながら、漢字を探す

☆漢字を使って、話す

図20 漢字学習と他の技能の学習とのコラボ

たい、新聞が読めるようになりたい、日本語でレポートを書かないといけないというような人たちには、ある程度、体系的な学習への道筋を示してあげる必要があります(図21)。医学などをやる人たちは、ものすごく難しい常用漢字ではないような漢字も医学用語にはたくさんでてきます。そういった場合も、構成要素の面から分析できる力や、漢字をヒントに語構成を分析できる力などがあれば、自分たちで乗り越えていきます。

それから、学習がうまくいっているかどうか、先生にフィードバックしてほしいという学習者は多くいます。やらせっぱなしではなく、どこがうまくいって、どこがうまくいっていないのかというフィードバックは必要です。いまイ

ンターネットでどんな情報をとれる社会ですし、辞書や参考書を使って自分たちでも勉強ができます。なんといいっても漢字は自律学習が中心になるとはいうものの、どうやっていいかわからないという学習者も多いので、それらを紹介して、そのなかから自分に合った方法を選んでもらう。やってみてうまくいかなかったら、適宜、他の方法もあることを示したり、アドバイスしたりすることが大事です(図22)。

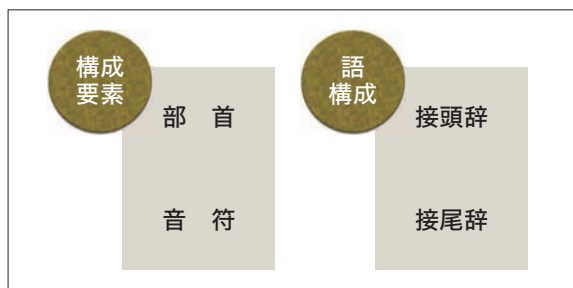


図21 体系的な学習への道筋を示す



図22 学習方法を紹介し、適宜アドバイス

## おわりに

漢字学習の道は果てしなく続きます。そんなに簡単には終わりません。平仮名や片仮名のように、五十音が全部終わりましたという日はきません。いつまでも続きます。ただ、その先に光が見えないトーンネルにはいったような状態だと、心理的にストレスに圧迫されて、途中であきらめてしまう、なにか自分を正当化する理由を見つけて、こんなものはやらなくていいとかいうようにあきらめてしまう人が増えてしまっているだけ残念なことです。先に光が見えれば、難しい難しいといっているだけでなくて、面白さも見つけられるのではないかと思います。

外国人に日本語を教えるといくなくて、

漢字は、非漢字圏学習者にとっては非常に大きな圧迫する壁になりえるものです。そこをなんとか突破するために、難しさをなく、面白さ、楽しさを見つけていきたい。一人でコツコツ出口の見えないトンネルのなかで作業するのは辛いものなので、もうちょっと明るい光が見えるところで、一人でなくみんなで活動しながら勉強していけるようになればいいというのが、非漢字圏学習者に対するアドバイスです。

反対に、漢字圏の人たちは、もう漢字はできる、わかるから特に勉強しなくて

も良いと思っている人たちもけっこう多いんですね。特にはじめのころです。上級くらいになると、漢字をまじめに勉強しなかったからか、読みが不正確なもの、発音が不正確なもの、中国語で使う品詞の使い方と日本語で使う品詞の使い方が違うので、いつまでたつてもそれがなおらない。逆に、非漢字圏の学習者のほうが上級までできている人たちは、じつに鮮やかにことばを使い分けて、漢字も正しく使い分けているのを横目で見ながら、どうしてもはじめのころからちゃんと勉強しなかったんだらうと後悔する人も多いのです。それはある意味では先生にも責任があります。教室に漢字圏と非漢字圏の学習者がいたら、先生は非漢字圏の学習者ばかり面倒をみて、漢字圏の学習者に対しては、あなたはもう大丈夫だから自分でやりなさいというようにほうっておくようなことが多いですね。漢字圏の学習者は、もう大丈夫だと思いついて、自分の弱点や、やらなければならないことに気がつかないことが多い。そうならないように警告することも大事です。

漢字学習の道はけっして一本ではなくて、学習者の出身の文化圏、学習目的などによって、頂上に登るためには何本も道筋があります。なんのために、どこまでできればその人の学習目的が達せられるか。日本に旅行にきて、ちよつとサインが読めればいいという人に、二千字も教える必要はありません。地域に住んでいて、周りに支援してくれる人たちがたくさんいるので、読み書きはできなくても、話を聞いてわかれば大丈夫だという人もいます。最初から漢字で苦しめることではないのかもしれませんが、でも、やっぱり読めるようになりたい、読めたら便利だなあ、読めたり書けたりできることで自分がステップアップできると気がついたとき、その道筋を示してあげられる教師が

必要であらうと思います。

さきほども申し上げたように、漢字圏の人たちには、はじめに、むしろ厳しいことをいって、日本の漢字と中国の漢字は違うということをしっかりと認識させて勉強をはじめさせれば、中級、上級になったときどんどん上達していけます。いまのように停滞しなくてすむ日があるのではないかと思っています。

限られた時間でしたのでまだまだお話ししたいことがあるのですが、このあとに控えておられる五名の先生方から世界の漢字教育の話を聞くことを楽しみに、私からのお話はここまでにさせていただきます。どうもありがとうございました。

注 1 国立国語研究所 (1976) 『現代新聞の漢字』 (国立国語研究所報告56) 秀英出版

2 加納千恵子・大神千春・清水百合・郭俊海・石井奈保美・谷部弘子・石井恵理子著／関正昭・土岐哲・平高史也編 (2011) 『日本語教育叢書「つくる」漢字教材を作る』スリーエーネットワーク

3 武部良明 (1983) 『漢字はむずかしくない』アルク

4 山本康喬 (2012) 『漢字音符字典』東京堂出版

5 Pye, Michael (1971) 『The Study of Kanji』 The Hokuseido Press

6 Rowley, Michael (1992) 『KANJI PICT-O-GRAPHIX』 Berkeley, Ca: Stone Bridge Press

7 ガリーナーヴォロビヨフ・ヴィクトル・ヴォロビヨフ (2005) 『漢字物語 I』キルギス日本人材開発センター

8 ボイクマン総子・渡辺陽子・倉持和菜・高橋英雄 (2007) 『ストーリーで覚える漢字300』くろしお出版

9 Heisig, James W. (1977) 『Remembering the Kanji』 日本出版貿易

10 浜西正人 (1983) 『浜西式 角川漢字学習字典』角川書店

# 台湾の日本語教育における漢字学習

林立萍

今日、報告するテーマは、「台湾の日本語教育における漢字学習」についてです。今日の報告は、大きく三つに分けられます。まずは、漢字を母語で用いている台湾の日本語教育事情について簡単に紹介します。次に、台湾の日本語学習者がどのように日本語の漢字を学び、日

本語の漢字とどう向き合うかについて触れます。最後は、自分の経験からえた日本語の漢字教育の課題点や学習法についての提案を述べていきたいと思います。

## 一・台湾の日本語教育事情

現在の日本語教育事情をいうとき、時間の流れから見ると大きく三つの時期に分けられると思います(図1)。第一期目は、「国語」として推進されていた日本語教育です。皆さんもご存知のように、

### ①「国語」として推進されていた日本語教育

日清戦争の結果、台湾は日本に割譲されその植民地となり、明治28(1895)年から約51年間、日本の教育制度が持ち込まれ、初等教育を中心に国語としての日本語教育が行われていた。日本語は「国語」として強制的にその普及が推進された。



図1 台湾の日本語教育事情

日清戦争の結果、台湾は日本に割譲され、その植民地となり、明治二十八(一八九五)年から約五十一年間、日本の教育制度が持ち込まれ、初等教育を中心に国語としての日本語教育が行われていました。日本語は「国語」として強制的にその普及は推進されました。そのため、現在の台湾には母語のように日本語を話すことができる年配の方もけっこういます。

第二期は、いわゆる「外国語」として厳禁されていた日本語教育です。これは昭和二十(一九四五)年の太平洋戦争の終戦を境に、台湾は中華民国に祖国復帰し、新たな「国語」を北京語に定め、日本語の使用を禁止しました。そして、一九六三年に私立中国文化大学に高等教育機関として戦後初の日本語学科が設置されました。それに伴い、公的な日本語の学習は日本語学科のある大学に限られるよ

### 林立萍(りん りっぺい)

台湾大学教授。名古屋大学大学院文学研究科博士(文学)。専門は、日本語語彙、漢字情報処理。著書は『『大漢語林』による統合漢字の比較語彙論的研究序説そのための基礎研究-』(凱倫出版社、2005年)、『国際日本学研究所の最前線に向けて流行・ことば・物語の力』(編著、台湾大学出版中心、2013年)、『日本昔話語彙の研究』(台湾大学出版中心、2014年)。





うになりました。ただし、その後、日本との国交断絶（一九七二年）によって、日本語学科の増設もいっさい許可されなくなりました。私立中国文化大学の日本語学科は当時、唯一の公的な日本語の学習機関となりました。この時期の日本語教育は、前期と対照的に、ある意味では厳禁されているのではないかと、私は考えています。

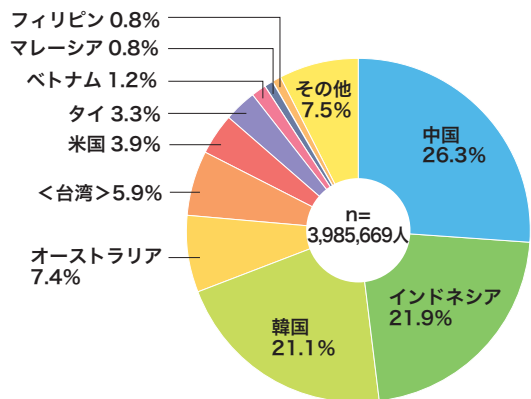
第三期は、「外国語」として推奨されている日本語教育です。状況がちよっとかわってきて、ここ十数年来、日本語は学習ブームとなり、一つの専攻として学科が設立されている高等教育機関が雨後のたけのこのように数多く出現しました。それ以外の各大学でも第二外国語として履修者数が年々増加し、かなり歓迎されています。たとえば、私の勤務校の台湾大学では、学部生は約一万五千人在籍し、その中の五分の一の学生が日本語を勉強しています。

一方、中等教育機関では、一九九七年に日本の文部省に相当する台湾の教育部が、中等教育における第二外国語三年計画を開始したのに伴って、中学校や高等学校などでも日本語のクラスが開講されるようになりました。初等教育では、ごくわずかですが、日本語を必修科目として日本語教育を導入している機関も存在しています。

この時期では、その前の厳禁という学習状況ではなくて、むしろ推奨に一変したと考えられるのではないのでしょうか。

ここで、台湾の日本語学習者数についてみてみます。図2は、国際交流基金による二〇一二年度調査の結果ですが、台湾の学習者数はお

各国・＜地域＞別日本語学習者数の割合



2012年 順位	国・＜地域＞	学習者（人）
		2012年
1	中国	1,046,490
2	インドネシア	872,411
3	韓国	840,187
4	オーストラリア	296,672
5	＜台湾＞	233,417
6	米国	155,939
7	タイ	129,616
8	ベトナム	46,762
9	マレーシア	33,077
10	フィリピン	32,418

図2 台湾の学習者数  
（『2012年度日本語教育機関調査結果概要 抜粋』  
（国際交流基金））

よそ二十三万人です。台湾の人口はいま二千三百万人ほどですので、約一パーセントとなっています。つまり、一〇〇人に一人が日本語を学んでいます。

また、当時は日本語の学習者は世界全体で三百九十八万人ほどです。台湾の学習者の割合は約五・九パーセントと、調査地域百三十六か国のなかで第五位となりました。台湾では日本語学習者の中でもっとも多いのは、高等教育機関で十二万人いたそうです。

また、国際交流基金のウェブサイトによると、二〇一〇年度の日本語能力試験の受験者は約五万四千人を数えており、台湾の総人口約二千三百万人に占める割合で見ると、その数は世界最高水準にあるといえます。

## 二・台湾の日本語学習者の日本語の漢字との向き合い方

さきほど申しあげましたように、台湾では学習者のなかで一番数が多いのは高等教育機関です。日本語学科または選択科目、第二外国語として日本語を取り入れている高等教育機関は、現在では約百六十五機関で、全高等教育機関（百七十五機関）のうち約九四・三パーセントの機関で日本語教育が実施されていることになります。そのうち、日本語が主専攻の学科を有している学校は四十三機関を数えています。現在の段階で私の知っている限りでは、どこも漢字学習

### 【作答方法】 請聽完日文後完成句子。

- 1 納豆を食べるときは、砂糖だけではなく\_\_\_\_\_のですよ。
- 2 車で行きたいんです。でも、\_\_\_\_\_し、駐車場も少ないし…。やっぱり電車で行くわ。
- 3 \_\_\_\_\_も今大学に通っています。
- 4 \_\_\_\_\_ね。クーラーを付けましょうか。
- 5 この写真は、\_\_\_\_\_物です。いいでしょう。
- 6 夏はやっぱ\_\_\_\_\_だね。
- 7 吉田さんは\_\_\_\_\_に住んでいますよ。
- 8 質問があったら\_\_\_\_\_てくださいね。
- 9 今度のテストは、\_\_\_\_\_でしたよ。
- 10 私たち人間は、生活しているだけで\_\_\_\_\_います。

図3 1回目の書き取りテスト調査票

を一つの科目としてカリキュラムに組み入れていません。つまり、漢字をわれわれはすでに母語のように使っていることから、別に習わなくてもよいということではないかと私は見えています。日本語の漢字学習は、学習者に任せるという状態であるといつても過言ではありません。台湾の漢字に対する

る学習状態はこのようなものですが、では台湾の学習者は漢字に対してどのような意識を持っているのか、一つの試みとして、今年六月に、

① 中国語母語の漢字知識に影響させる漢字表記を多用しているのか、

② 漢字表記を使用する場合は、繁体字を使う、つまり、私たちが母語に使っている繁体字を使用する傾向がどうか、  
について調査してみました。

調査は、私の勤務校の日本語学科の学生や大学院生九十五名を対象にテストを実施してみました。内訳は、上級（学習歴四年以上）学習者二十四名、中級（学習歴一〜四年）学習者三十七名、初級（学習歴一年未満）学習者三十四名です。調査方法は、書き取りテストです。

まず、調査票を図3のように作成しました。私は受験者に、この調査票を渡して、私が「納豆を食べるときは、砂糖だけでなく醤油も入れるんですよ」と音声を提示して、学習者に穴埋めのかたちでやってもらうテストです。その穴埋めの「醤油も入れる」という部分には、漢字でなければいけないという制限はなく、平仮名でも片仮名でも構いません。つまり、日本語を聞いて文字表記するとき、漢字を多く使うかどうかといった傾向、意識を知りたいということです。全部で十問あります。

そして、二回目は同じような内容ですが、今回は穴埋め式ではなく、選択式の調査になります（図4）。やはり私が「納豆を食べるときは、砂糖だけでなく醤油も入れるのですよ」と読み上げ、「しょう」の漢字を三つのなかから選択させるようにします。ここでは、「正しいかどうか」という問題ではなく、直感的にやってください」という指示を出し



ました。

結果を図5のようにまとめてみました。一回目の手書きテストの結果は、薄い青の線です。濃い青の線は、平仮名を書いた人の数です。このような傾向を見ていくと、十問のなかで平仮名より漢字を書く傾向が多いことがわかりました。もちろん、漢字が正しく書けるかどうかという問題ではなくて、ただ、漢字を使うかどうかという傾向です。また、二回目のテストの選択式になると、漢字表記をさらに多く使う傾向が強くなるということがわかりました(図5)。つまり、漢字はやっぱり日本語では使うというような意識があると考えられます。

#### 【作答方法】 請聽完日文後完成句子。

1. 納豆を食べるときは、砂糖だけではなく\_\_\_\_油も入れるのですよ。  
① 醬 ② 醬 ③ しょう
2. 車で行きたいんです。でも、道が\_\_\_\_んでいるし、駐車場も少ないし…。  
やっぱり電車で行ますわ。  
① 混 ② 込 ③ こ
3. 兄も\_\_\_\_も今大学に通っています。  
① 姐 ② 姉 ③ あね
4. \_\_\_\_いですね。クーラーを付けましょうか。  
① 暑 ② 熱 ③ あつ
5. この写真は、\_\_\_\_から撮った物です。いいでしょう。  
① 窓 ② 窓 ③ まど
6. 夏はやっぱ\_\_\_\_が一番だね。  
① 氷 ② 氷 ③ こおり
7. 吉田さんはわたしの\_\_\_\_に住んでいますよ。  
① 隣 ② 鄰 ③ となり
8. 質問があったら手を\_\_\_\_げてくださいね。  
① 舉 ② 舉 ③ あ
9. 今度のテストは、簡\_\_\_\_でしたよ。  
① 單 ② 單 ③ たん
10. 私たち人間は、生活しているだけで水を\_\_\_\_しています。  
① 汚 ② 汚 ③ よご

図4 2回目の書き取りテスト調査票

次は、漢字を使うとき、自分の母語で使う繁体字を使うのか、日本語の漢字を使うのかという傾向も調べてみました(図6)。詳しく見ていくと、手書きの場合は、必ずしも繁体字を使用する傾向があるとは限りません。この傾向は、あらかじめ漢字を用意してある選択式になるとさらに高くなることがわかりました。つまり、学習者に日本語の漢字が自分のなじみのある繁体字と違い、日本語を読み書きする際に、日本語の漢字を使用するという意識があると考えられます。ただし、日本語では繁体字と違った文字を使っているという意識があるとはいえますが、詳しくその調査票を見ていくと、誤字もけっこう見受けられます(図7)。たとえば、兄、姉というようなところです。日本語の姉ではなくて、われわれが台湾で使っている「あね」という漢字です。あるいは、7の「隣」のところですが、日本語の場合はこごと偏は左にあります。台湾で使っている繁体字では右にあります。このように、うっかりして母語の漢字を使ってしまうような例もいくつか見られました。

### 三. 漢字教育の問題点や学習法の提案について

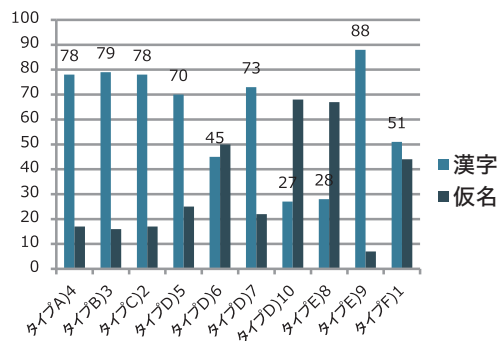
このような現象に対して、どのように対応したらよいのか、私は漢字教育の問題点や学習法の提案について少し考えてみました。

台湾は漢字を母語に用いるといえますが、繁体字は日本の常用漢字と微妙に異なっています。台湾で使用する漢字のうち、たとえば、「台湾」は「臺灣」と書かなければならないのですが、日本の新字体に相当する略字は、公的に認知されていますが多くありません。その大半は

### ★手書き

10問の中で7問が仮名より漢字を書く傾向が見られる。

タイプD) 6:氷・タイプD) 10:醬タイプE) 8:拳



### ★選択

手書きの場合より漢字表記を多用する傾向がさらに強くなる。

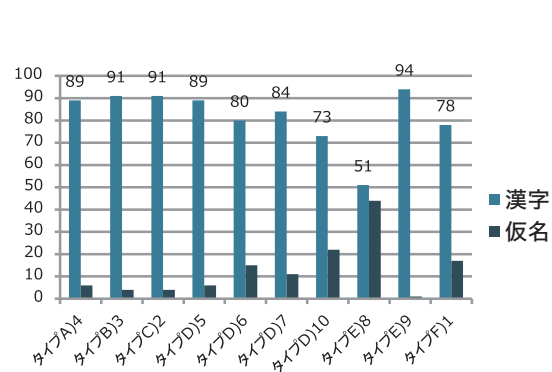
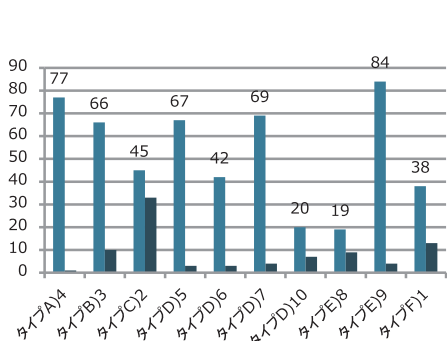
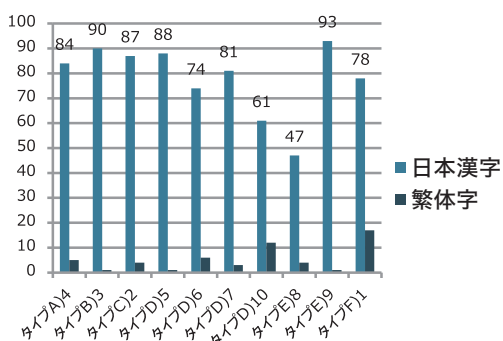


図5 視点1：漢字表記を多用するのか

### ★手書き



### ★選択



全体としては、漢字表記をする場合、必ずしも繁体字を使用する傾向と言えない。この傾向はあらかじめ漢字の用意してある選択式になるとさらに高くなる。つまり、学習者に日本語の漢字が自分の馴染んでいる繁体字と違い、日本語読み書きする際に、日本語の漢字を使用するという意識があると考えられよう。

図6 視点2：繁体字を使用する傾向がどうなるか

【作答方法】  
 請聴完日文後完成句子。

- 納豆を食べるときは、砂糖だけではなくしょうゆもいれよ。
- 車で行きたいんです。でも、あちこちでバス、駐車場も少ないし…。  
やべり電車でいきますわ。
- 夏も大学に通っています。
- 暑いな。クーラーを付けましょうか。
- この写真は、おかしな物です。いいでしょう。
- 夏はやっぱりお祭りだね。
- 吉田さんはおれのおれに住んでいますよ。
- 質問があったら手をあげてくださいね。
- 今度のテストは、簡単でしたよ。
- 私たち人間は、生活しているだけで水をよんでいます

図7 調査結果

旧字体に相当する、いわゆる「繁体字」です。似ていますが、形が微妙に異なっています。もし、日本語の漢字を学ぼうとすれば、そのような細かいところ、微妙に異なっているところに気を使って学んでいけば、たぶん、さきほどのような誤用、あるいは誤写がなくなるのではないかと思います。ですから、その異なり方とどのようになっているのかということを少し整理してみました。

先に答えというか結果をだしてみると、**図8**のようになります。つまり、台湾で使っている繁体字と日本の常用漢字との対応関係について、おおまかに整理すると**図8**のようになりますと私は考えています。まだ最終結果ではありませんが、このような方向に向かって整理していけば誤写、誤字はなくなるのではないかと考えているわけです。たとえば、「田中さんのアパートはどうですか」という質問に、**図9**は学習者の書いたものです。「駅を近いですが、狭くて、クーラーがない

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊	櫃	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
		込 枳 働				
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 汚			
		單 舉 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

日本語の漢字が台湾の漢字でも見られるかどうかについては、大まかに表のように整理できると考えられる。

**図8** 日本語の漢字と繁体字について

質問：田中さんのアパートはどうですか。

→ 暑(熱)いとありますが、狭くて、クーラーがないので、夏は暑(熱)いです。

日本語：気温が著しく高い→「暑(熱)い」

中国語：〔好熱〕〔很熱〕

日本語：温度が著しく高く感じられる→「熱(熱)い」

**図9**

ので、夏に熱いです。「暑い」を「熱い」と書いています。日本語で気温が高いという場合は、「暑い」を使っています。われわれの学習者のなかには、けっこう母語の影響というか、自分のなじみのある漢字を使って表記する傾向がかなり見られます。つまり、日本語の「暑い」の意味を通して自分の母語で使っている漢字の「熱」という字に変換するというプロセスです(**図10**)。これは台湾の繁体字と日本の常用漢字との対応関係から見ると、おそらく一つのグループとしてピックアップすることができると思います。

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊	櫃	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
		込 枳 働				
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 汚			
		單 舉 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

**図10** 日本語の漢字と繁体字について

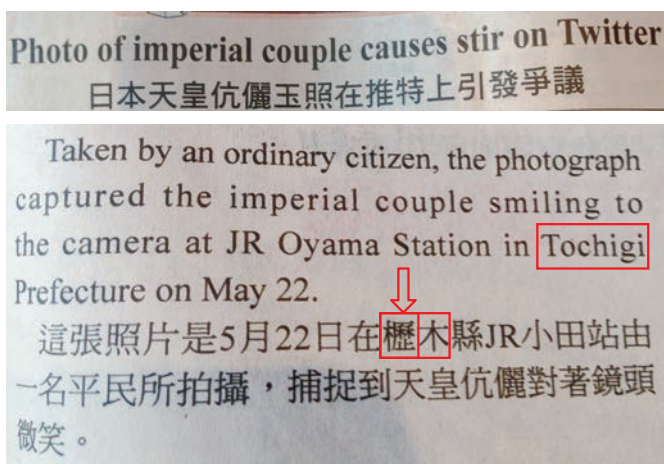


図 11

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	新字体	暑 姉 込 枳 働 窓 氷 隣 汚 單 舉 學	姊 姊 窗 冰 鄰 污 單 舉 學	櫪	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
	旧字体	單 舉 學				
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図 12 日本語の漢字と繁体字について

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	新字体	暑 姉 込 枳 働 窓 氷 隣 汚 單 舉 學	姊 姊 窗 冰 鄰 污 單 舉 學	櫪	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
	旧字体	單 舉 學				
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図 13 日本語の漢字と繁体字について

また、さきほどお見せした「姉」という字ですが、繁体字には「姉」の字はありません。しかし、理解するプロセスにおいては、訓をメディアにして台湾で使っている同じ概念の漢字「姐」を使ったりする現象が見られます。これも、台湾と日本の漢字の対応関係を一つのグループとしてグルーピングすることができるのではないかと思います(図 8)。

もう一つ、図 11 は私がたまたま台湾の新聞で見た例ですが、英語の説明もはいっているので非常に対照しやすいですが、「櫪」は栃木県の

「枳」という意味です。じつは、台湾の新聞では日本の漢字を使うのではなくて、「櫪」このように同じような読み方ですが、字形はまったく違う字を使ってしまうという例です。おそらく、日本で作られた国字といったようなものは、台湾にはないため、どのように表記するのかという点、同音による書き換えというような現象もあるのではないかと思いますので、これも一つのグループとしてグルーピングすること

ができるのではないかと思います(図 12)。

次の例です(図 13)。繁体字には、たとえば、「窓」「氷」「隣」「汚」な

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姉		暑(熱) 姉(姐)	自 (訓)
		込 枳 働		櫃		
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 汚			
		單 舉 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結 (音)

図14 日本語の漢字と繁体字について

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姉		暑(熱) 姉(姐)	自 (訓)
		込 枳 働		櫃		
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 汚			
		單 舉 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結 (音)

図15 日本語の漢字と繁体字について

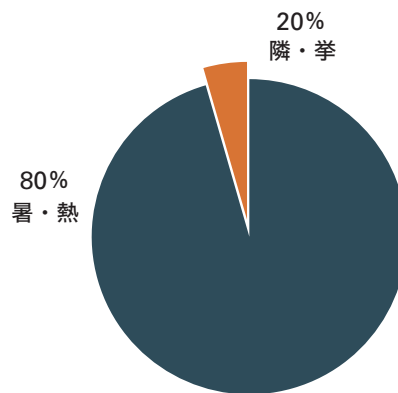


図16

どはありません。似ているものではありません。「隣」は、繁体字はこごと偏の位置が異なっています。このような例が結構あります。これも一つのグループにまとめることができれば、勉強するときには便利ではないかと思えます。

また、「単」「舉」「学」などは繁体字にもありません。昔の旧字体の「單」「舉」「學」は、現在の台湾では使っています。これはうっかりすると、日本の漢字として使ってしまうような傾向、現象も見られるのではないかと思います、一つのグループとしてまとめることができるので

はないでしょうか(図14)。

最後のグループは図15です。醤油の醬は、常用漢字にはいっていないということですが、じつは日常生活のなかでも結構使われていますが、その場合はうっかりすると、台湾の使っている「醬」のような字形になってしまいます。日本の常用漢字と台湾で使っている漢字は、使い方、字形との類型関係から見ると、さまざまなタイプがあると考えられます。

もちろん各タイプの類型関係の割合は、いま調べているところで最



最終結果をご報告することはできないのですが、だいたい常用漢字からみると八〇パーセントくらいは日本の常用漢字と似ている、一致していることがわかります(図16)。ただし、詳しく見ると、さきほど申し上げましたように、「暑い」を台湾で使っている「熱」に書き換える例ももちろんあります。詳しい分析は、機会があれば今後やっていきたいと思いますが、結果としては、台湾で使っている日本の常用漢字は約八〇パーセントあります。残り二〇パーセントほどは、台湾ではあまり見られません。ですから、集中的にこの二〇パーセントを先に勉

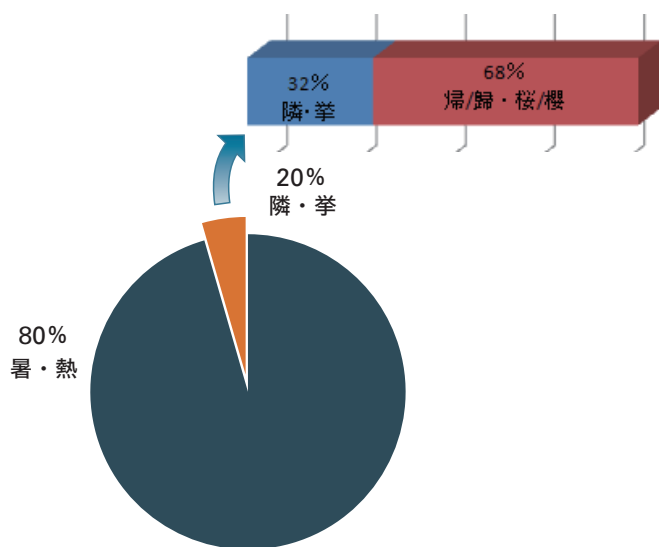


図17

強して身につけていけば効率的ではないかと思っています。

また、二〇パーセントのなかに、さきほどの「隣」のように、微妙に字形が違っているのですが、意味が同じようなものは三割くらいしかありません。残りの六割、七割近くは、だいたい新旧時代の漢字になります(図17)。

このように整理していくと、日本の漢字は、漢字を母語に用いる台湾の学習者にとっては必ずしもなじまないものではありません。ただ、さきほどでもご報告したように、微妙に異なっています。そのため、

違いが起こりうる可能性があります。もし、学習や指導をする際に、両者の相違点に十分に留意すれば、さきほどのような誤りはかなり防げると考えられるのではないかと思います。

以上で私の報告を終わります。ご清聴どうもありがとうございます。ありがとうございました。



# フィリピンにおける漢字教育の現状 —フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習ビリーフと ストラテジー使用について—

フランチェスカ・ヴェントウーラ

## フィリピンはどんな国？

本題にはいる前に、フィリピンについて少し話したいと思います。フィリピンはご存知のように、東南アジアにある島国で、現在人口は一億人を超えています。そのなか

- ☐ 多民族・多文化・多言語国家
- ☐ 人材輸出国
- ☐ コールセンターやビジネス・プロセス・アウトソーシング会社(BPO)が多い



図1 フィリピンはどんな国？

で、マレー系フィリピン人、中国系フィリピン人、スペイン系フィリピン人や少数民族がいます。多民族国家ですので、フィリピン国内の言語数は百言語以上にもなっています(図1)。公用語として英語もよく使われています。

また、特徴としてフィリピンは人材輸出国であることがあげられます。一九七〇年代からフィリピン政府は労働者が世界各国へ出稼ぎにいくことを奨励しはじめまし

た。現在、外国に出稼ぎにでているフィリピン人は一千万人を超えています。

そして、二〇〇〇年からフィリピンでコールセンターやビジネス・プロセス・アウトソーシング会社(BPO)が多くなって、現在約八十万人のフィリピン人がコールセンターやBPOで働いています。このような企業はもともとアメリカやイギリスの企業を支えるための英語をサポートしていましたが、最近スペイン語、中国語、タイ語、ベトナム語、フランス語と日本語などのサポートもしています。以前、日本語のできる人材を必要としていたのは日本企業だけでしたが、現在ではコカコーラ、IBM、ネスレ、ドイツ銀行のような多国籍企業とその下請けをしているアウトソーシング

## フランチェスカ・ヴェントウーラ (Francesca VENTURA)



国際交流基金マニラ日本文化センター非常勤講師。Deutsche Knowledge Services, Senior Associate。2007年、政策研究大学院大学日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)を修了。アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン大学IT研修センターなどフィリピンの様々な日本語教育機関で日本語を教える傍ら、国際交流基金マニラ日本文化センターの教材作成チームのメンバーとして、フィリピン中等日本語教育用教材『enTree - Halina! Be a Nihongojin!! -』の開発のほか、中等日本語教育の教師養成にも携わってきた。



会社(図2)も日本語能力を必要としており、このような仕事に就くために日本語能力試験のN1、N2合格が条件になっています。

日本語能力試験というのは、日本語を母語としない人を対象に、日本国際教育支援協会と国際交流基金センターが行う日本語の試験です。一番高いレベルがN1で、N1に合格するためには、漢字を二千程度と、語彙を一万語程度を習得しなければなりません。N2はN1よりハードルが低いですが、それでもN2に合格するためには、漢字を千字程度と語彙六千語程度を習得しなければなりません。

## フィリピンにおける日本語教育

フィリピン人の日本語学習者の人数は、二〇一二年に約三万二千人にのぼり、世界十位になりましたが、N1とN2に合格するフィリピン人の日本語学習者は非常に少ないのが現状です。現地の先生に、「多くのフィリピン人の日本語学習者は、なぜ、日本語能力試験N1、N2まで至らないのですか」と聞くと、「漢字に慣れていないフィリピン人にとつて漢字学習は困難であるからだ」という意見がよく聞かれます。でも、漢字自体の難しさ以外にさまざまな要因が漢字学習・習得過程に影響を及ぼしていると考えられます。

フィリピンの日本語教育機関においては、



このような仕事に就くために日本語能力試験の  
N1かN2合格が条件になっている！  
しかし、N1とN2に合格するフィリピン人日本語  
学習者が非常に少ない。

図2 フィリピンはどんな国？

漢字はよく平仮名と片仮名の修業後すぐに教えられます。大学と日本語学校では、漢字は日本語の授業の一部として扱われることが多いのですが、十か月くらいの集中日本語コースを実施し、漢字を独立した課題として扱っている機関もあります。集中日本語コースと一般の日本古語の授業における日本語の漢字教育の主な違いは、漢字を教える時間数と学習漢字の数です。よく使われている教科書には、ベース漢字五百字となっています。多くの場合、違う教材を使っても、授業の内容も、漢字を教える際に用いられている指導要項もほとんどかわりません。

一般の日本語の授業は、週二回程度行われ、各授業時間は一時間半から二時間となっています。そのなかで漢字指導は週一回か二回で二十分から三十分程度行われ、学習漢字数は五字から十字となっています。一方、集中日本語コースでは、漢字の指導は週一回か二回で、授業の時間が二時間から三時間程度で、学習漢字数は約二十字から二十五字となっています。機関として初級段階での到達目標は、日本語能力試験N4合格者レベルで、学習漢字数は五百字です。中級段階の到達目標はM2合格レベルで、学習漢字は千字となっています。

## フィリピンにおける漢字教育の問題点

フィリピンでは、漢字は一般的に似たような方法で教えられています。図3は『BASIC KANJI BOOK』からとったもので、これを見ながら学生は漢字を勉強します。まず、教師は教えようとしている漢字を学習者に見せて、漢字の意味を英語かフィリピン語で説明します。そのあと、漢字の読み方と熟語を学習者に読ませます。学習者が漢字の意味と読み方がわかったら、教師は漢字の書き順を見せるために、漢字を黒板やホワイトボードに書き、升のある漢字シートに五から十回くらい漢字を書いてもらいます。そして最後に、教師はフラッシュカードを使って熟語の読みの練習を行います。漢字の授業が終わったら、教師は練習シートを集めて、次の授業でクイズをします(図4)。

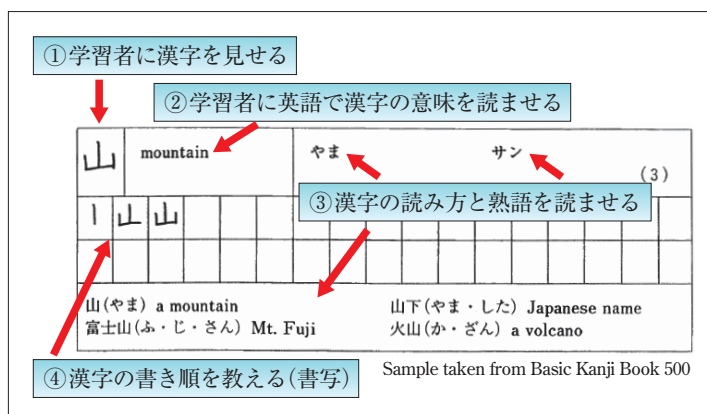


図3 漢字の教え方

フィリピンにおける漢字教育の問題として、次

のような問題があげられます。

まず、フィリピン人日本語学習者は、漢字に対して否定的なイメージをもっているのではないかと考える日本語教師が少なくないことです。

また、一般的な日本語の授業は文法が中心となっているので、教師は先に文法を説明して、余った時間で漢字を教えることが多くなっています。さらに、学習者の漢字学習に対するモチベーションが下がり、欠席が多くなったり、日本語の勉強をやめたりする学習者もいます。この問題を解決するために、漢字学習過程に影響を及ぼしている要因を把握する必要があります。

漢字学習過程に影響を及ぼしている要因には、学習者要因と、学習環境要因、そして社会・伝統・文化的要因があります(図5)。この要因は、学習者と教師の漢字学習に対するビリーフに影響を与え、学習ストラテジー使用、教授ストラテジー使用と学習成果を左右しています。ここから学習成果をあげるには、フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用についてみていくことが必要だと考えられます。

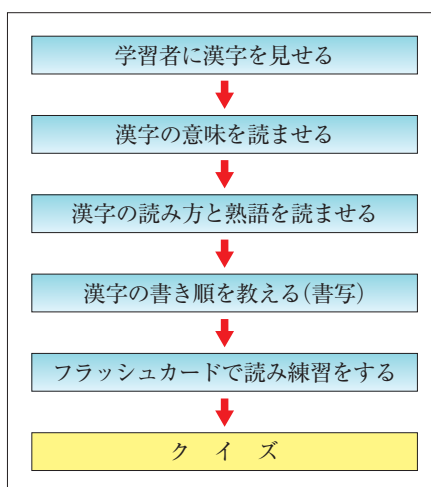


図4 漢字の教え方

## 漢字学習に対するビリーフ

漢字学習に対するビリーフというのは、人々がそれぞれ漢字学習方法や、その効果などについて自覚的または無自覚的に思っていること、感じていること、そして信じていることすべてです。たとえば、私が

日本語を勉強しはじめたとき、漢字を読みたいので、楽しい。いい成績をとるには、漢字の意味、訓読み、音読みを同時に覚えたほうがいい。漢字を覚えると、日本語能力が上がる。漢字を覚えるには、復習が欠かせないものなどのビリーフをもっていました。私はこのビリーフを七つの領域に分類しました。

①私の国は日本と文化的、政治的、経済的な関係をもっているため、漢字の社会的、伝統的、文化的な価値に対するビリーフ

②漢字の読み書きは難しく、日本語学習の障害になっているような漢字の難しさに対するビリーフ

③四十歳以上の大人にとって漢字学習は難しい、中国語学習経験のある学習者は、漢字は得意だというような

適正に関するビリーフ

④漢字の読み書きができるとうい仕事に就けるような、漢字の有効性に対するビリーフ

⑤漢字を勉強するのが楽しいというような、漢字のよい面に対するビリーフ

⑥漢字を教える際、教師はさまざまな教授法を使用しなければならないというような教師の役割に対するビリーフ

⑦漢字の書き順に注意を払わなければならないような漢字学習法に対するビリーフ

## フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するビリーフ

フィリピンで行った二〇〇七年と二〇一四年の調査から、フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するビリーフを具体的にみていきましょう(図6)。

漢字に対するビリーフと学習戦略の使用を知るために、フィリピン人日本語学習者、主に大学生と社会人と、彼らの教師を対象にアンケート調査とインタビュー調査を行いました。なお、フィリピンの学校制度は日本と異なっており、大学には十四歳から二十一歳くらいの学生がいます。フィリピン人日本語学習

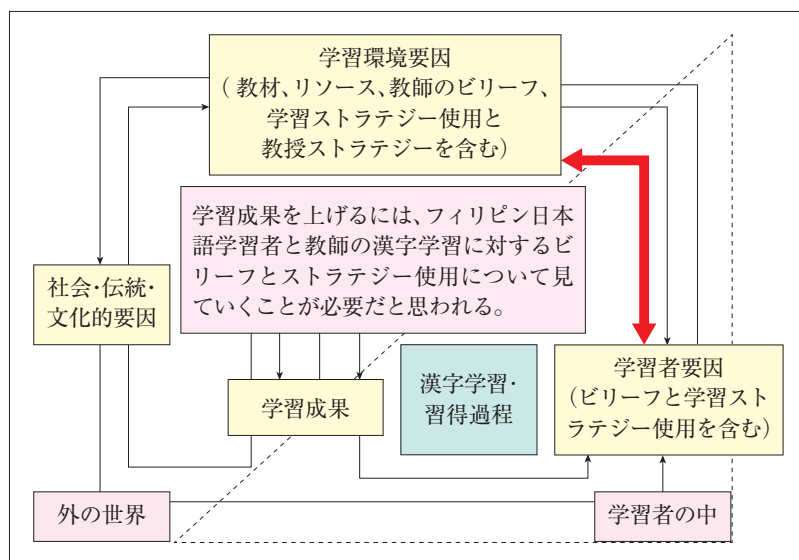


図5 漢字学習過程に影響を及ぼしている要因

者と教師のビリーフとストラテジー使用を知るために調査を行いました。変化を調べるために、二〇一四年にも同じ調査を行いました。二〇〇七年のアンケート調査の対象者は、フィリピン人日本語学習者九機関二百九名と、フィリピン人日本語教師十五機関二十五名です。そのなかの三十四名の学習者と八名の教師をインタビューしました。一方、今年行ったアンケート調査の対象者は、フィリピン人日本語学習者五機関百名と、フィリピン人日本語教師五機関十二名で、そのなかで三名の学習者と三名の教師をインタビューしました。

二〇〇七年の調査結果から、学習者のビリーフは全体的に肯定的でしたが、教師のほうは否定的で、学習者には漢字学習における適正がないと考えていたことが明らかになりました(図7)。また、フィリピン人日本語学習者は、漢字学習において教師に対する期待が高く、教師に積極的な役割をはたしてほしいと考えていることがわかりました。

教師の役割についてアンケート調査の自由記述と、学習者に対するインタビューでは、教師は漢字の勉強をよりおもしろく、わかりやすくするために、漢字学習ストラテジーを教えるべきだ、学習者に動機を与えるために教師は宿題、練習、クイズなどを与えるべきだという意見が聞かれました。教師は、教師の役割を自覚していましたが、彼らは漢字学習法を教師の役割より重視していたことがわかりました。学習者のビリーフのなかで、漢字の有効性が一番重要な役割をはたしていました。それに比べて、教師のビリーフのなかで漢字学習法が一番重要な役割をはたしていたことがわかりました。

二〇一四年の調査結果は、二〇〇七年の調査結果とあまりかわりませんでした。変化が見られました(図8)。まず、フィリピン人

日本語学習者だけでなく、教師も漢字の有効性を重視するようになりました。これは最近何人ものフィリピン人日本語教師は、日本語学校や大学だけでなくビジネス・プロセス・アウトソーシング会社などで働くことになりましたので、彼らも前より漢字の有効性を認めるようになりました。

次に、若くて日本のポップカルチャーに興味のある教師が増えていきますので、教師も漢字と漢字学習に対してもっと肯定的なイメージをもつようになってきたと思われます。

最後に、教師のほうは適正に関するビリーフが強いが、学習者のほうは「努力すれば誰でも漢字が覚えられる」と強く思っていることがわかりました。

ここまでビリーフについて述べてきました。次に、ストラテジーについてお話ししたいと思います。

### 漢字学習ストラテジー

簡単にいうと、漢字学習ストラテジーは漢字学習方法ですが、定義としては、漢字学習によりやさしく、より早く、より楽しく、より自主的に、より効果的に、そして新しい状況にすばやく対応するために学習者がとる具体的な行動です。

この漢字学習ストラテジーには、五つの領域があります(図9)。最初は、新しく習った漢字をできるだけ文や作文で使ってみる、漢字を一つの字ではなく熟語の一部として覚える、文脈から知らない漢字の意味をあててみるなどの文脈学習ストラテジーです。簡単にいうと、

文脈学習ストラテジーは、言葉の意味や使い方を推測したりする方法です。

二番目は、新しく習った漢字を必修仮名と漢字で連想する、知っている漢字を、形、意味または音でグループに分ける、漢字を覚えるためにストーリーをつくる、などの連想学習ストラテジーです。連想学習ストラテジーというのは、漢字の成り立ちのようにストーリーを考

えながら学ぶ方法です。

三番目は、フラッシュカードを使って似ている漢字の違いを観察する、新しく習った漢字を覚えるために、それを繰り返して書く、よく知らない漢字に振り仮名をふるなどの認知学習ストラテジーです。認知学習ストラテジーというのは、他の漢字との違いを意識しながら学んだり、繰り返し読み書きしたりする方法です。

2007年の調査	2014年の調査
2007年3月～7月 マニラ ①アンケート調査 対象者: ・フィリピン人日本語学習者 (9機関・209名) (大学生と社会人) ・フィリピン人日本語教師 (15機関・25名) ②インタビュー 対象者: フィリピン人日本語学習者(34名) フィリピン人日本語教師(8名)	2014年7月20日～8月27日 マニラ アンケート調査 ①対象者: ・フィリピン人日本語学習者 (5機関・100名) (大学生と社会人) ・フィリピン人日本語教師 (5機関・12名) ②インタビュー 対象者: フィリピン人日本語学習者(3名) フィリピン人日本語教師(3名)

図6 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフの調査

学 習 者	教 師
★漢字学習に対して全体に肯定的である ①「教師の役割」への期待が高い ②「漢字の有効性」に特徴がある	★漢字学習に対して否定的 ①「教師の役割」を自覚している ②フィリピン人学習者には適性がない ③「漢字学習法」に特徴がある

図7 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフの比較 (2007年)

<input type="checkbox"/> 教師も「漢字の有効性」を重視するようになった <input type="checkbox"/> 漢字学習に対して肯定的なイメージを持っている教師が増えている <input type="checkbox"/> 教師の方は適性に関するビリーフが強いが、学習者の方は、「努力すれば、誰でも漢字が覚えられる」と強く思っている
---

図8 学習者と教師の漢字学習に対するビリーフ (2014年)

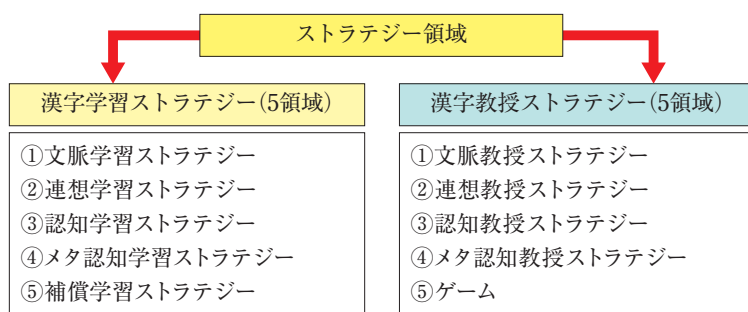


図9 漢字学習ストラテジーと漢字教授ストラテジーの5つの領域



四番目は、自分の漢字学習について考える、先生から習った漢字学習ストラテジーを利用するなどのメタ認知学習ストラテジーです。メタ認知学習ストラテジーは、自分の学習方法について振り返り、今後の学習方法について考えたりする方法です。

最後の領域は、補修学習ストラテジーで、これは漢字の意味、読み方などを調べる方法をさしています。

## 漢字教授ストラテジー

簡単にいうと、漢字教授ストラテジーは漢字を教えるときの方法で、漢字をよりやさしく、より早く、より楽しく、より効果的に教えられるために教師がとる行動や工夫をさしています。漢字教授ストラテジーも五つの領域に分けました。

- ① 漢字を教える際に生教材を利用します。既習漢字が含まれている文章を学生に読ませるなどの文脈教授ストラテジー
- ② 漢字を教える際に、新しく習った漢字を、仮名または必修漢字と関連づけます。学生が漢字を覚えられるようにストーリーをつくるなどの連想教授ストラテジー
- ③ 漢字クイズやテストを頻繁して、漢字を覚えるとき、書き順を強調するなどの認知教授ストラテジー
- ④ 学生にさまざまな漢字学習ストラテジーを紹介して、漢字学習に利用できるリソースを紹介するなどのメタ認知教授ストラテジー
- ⑤ ゲーム

## 学習者の漢字学習ストラテジー

今回は時間の都合もあるため、学習者の漢字学習ストラテジーに着目してお話しします。

二〇〇〇年の調査で学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用を調べて比較した結果、次のことがわかりました(図10)。学習者は、漢字の形を覚えるストラテジーをより利用しています。一方、漢字の音または読み方を覚えるストラテジーはあまり使いません。一方、教師は形だけでなく、音を覚えるためのストラテジーもよく使用しています。これは、初級レベルの学習者と中・上級レベルの学習者のストラテジー使用の違いと考えられます。

次に、教師は学習者に比べると、辞書をよく利用していることが明らかに became。

最後に、学習者と教師のあいだで、漢字学習ストラテジーを使用する人は、アンケートの質問項目以外に、さまざまなストラテジーを使っていることがわかりました。自由記述とインタビューで、学習者

学 習 者	教 師
① 漢字の形を覚えるストラテジーが多く、漢字の音を覚えるストラテジーが少ない ② 辞書をあまり使わない ③ 学習ストラテジーを使う人はさまざまなストラテジーを使っている ★質問項目以外にもさまざまなストラテジーを使っている	① 漢字の形と音を覚えるストラテジーも使っている ② 辞書をよく使う ③ 学習ストラテジーを使う人はさまざまなストラテジーを使っている ★質問項目以外のストラテジーを使っていない

図10 学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用の比較 (2007年)

順位	学 習 者	教 師
1	新しく習った漢字の形を目で覚える（認知）	漢字の訓読みと音読みを同時に覚える（連想）
2	新しく習った漢字を繰り返して書く（認知）	漢字を1つの字ではなく、熟語の1部として覚える（文脈）
3	新しく習った漢字を既習仮名や漢字と関連付ける（連想）	新しく習った漢字をできるだけ文や作文で使ってみる（文脈）
4	知っている漢字を意味でグループに分ける（連想）	知っている漢字を形・意味・音読みでグループに分ける（連想）
5	似ている漢字の違いを観察する（認知）	知らない漢字を見たら、その漢字をすぐ辞書で調べる（補償）

図11 漢字学習ストラテジー使用（上位）（2014年）

□学習者は「知らない漢字を見たら、その漢字をすぐ辞書で調べる」という補償学習ストラテジーを前より使うようになった。

□漢字辞書として使えるスマホのアプリと漢字の勉強・復習・練習をするためのアプリがよく使われており、これ以外の新しいストラテジーはアンケートの自由記述のところに見られなかった。

⇒2014年の調査ではスマホを使って漢字を学ぶ人が増えていることがわかった。

図12 学習者と教師の漢字学習ストラテジー使用の比較（2014年）

述のところに、スマホのアプリで漢字の勉強、復習、練習をする以外の新しいストラテジーはあまり見られませんでした。

教師の漢字教授ストラテジーと学習者の漢字学習ストラテジー使用に関して、二〇一四年の調査結果と二〇〇七年の調査結果で大きい変化は見られませんでした。また、調査結果で学習者も教師も認知ストラテジーをよく使っていることが見られました。たとえば、教師は漢字を教える際に、書き順を強調します。一方、学習者は新しい漢字を習うと、漢字の書き順を暗記します。また、教師は学習者に漢字を繰り返して書かせます。一方、学習者は新しく習った漢字を覚えるために漢字を繰り返し書きます。そして、教師は漢字を教

はインターネット、スマホのアプリなどを利用して漢字を勉強したり、マイクロソフトオフィスのIMパッドを使って漢字の意味と読み方を調べたり、テレビ番組や映画の字幕を読んで、ポスターをつくって、新しく習う漢字を見えるところに貼る。他の人に漢字を教える、他の人とグループで勉強する。カラオケで歌いながら漢字の読みを練習する、日本人またはクラスメイトに知らない漢字の読み方、書き方を聞く。そして、リラックスするために漢字を勉強しながら音楽を聴くというストラテジーなどが報告されました（図11）。

二〇一四年の学習者と教師によく使われている漢字学習ストラテ

ジーの上位を二〇〇七年の調査結果と比べると、同じ傾向が見られます（図12）。学習者は形を覚えるストラテジーをよく使っていることがわかります。一方、教師は音を覚えるためのストラテジーをよく使っていることがわかりました。

また、二〇一四年の調査結果では上位にはきませんでした。学習者の辞書使用頻度が前より高くなっていました。その理由として、二〇〇七年に比べると、インターネット上で使える辞書や翻訳サイトに簡単にアクセスできるようになり、スマホに無料でダウンロードできる辞書や漢字を勉強するためのアプリが手にいれやすくなったからと考えられます。したがって、アンケートの自由記



教師の教授戦略	学習者の学習戦略
<p>①「認知」教授戦略をよく使っている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を教える際、書き順を強調する</li> <li>・漢字を学生に繰り返して書かせる</li> <li>・漢字を教える際、それを既習の仮名や漢字と関連付ける</li> </ul>	<p>①「認知」学習戦略をよく使っている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく習った漢字の書き順を暗記する</li> <li>・新しく習った漢字を繰り返して書く</li> <li>・新しく習った漢字を既習仮名や漢字と関連付ける</li> </ul>
<p>②「情意面」「教師の役割」に関するビリーフと相関がある</p>	<p>②「漢字の有効性」「情意面」「漢字学習法」に関するビリーフと相関がある</p>

図13 学習者の漢字学習戦略と教師の漢字教授戦略の比較 (2007年・2014年)

える際、導入しようとしている漢字を必修の片仮名か平仮名と必修の漢字に関連づけます。学習者の新しく習った漢字を覚えるために、それを必修仮名と必修漢字に関連づける習慣があります。このことから、教師の教授戦略は、学習者の学習戦略に影響を与えているといえます。ただし、教師の教授戦略と学習者の学習戦略の役割に一貫するビリーフと相関関係があり、学習者の学習戦略

の有効性、上意面、学習法に関するビリーフと相関関係があります。したがって、それぞれの学習戦略に異なる可能性が働いている可能性があります(図13)。

## おわりに

この研究をするこ  
とにより、教師は自  
分の考えや考え方に  
固執せず、もつ  
と学習者の声を聞

き、学習者の新しいアイデアを取り入れるなど、柔軟な姿勢が必要であることに気づきました。また、学習者と教師が異なるビリーフをもっていれば、異なる学習戦略を使用していることになり、教師と学習者のあいだに不一致が起こる可能性があります。学習者と教師が不安や不満をもち失敗につながりますので、学習者と教師のビリーフと学習戦略を使用を調べることはたいせつで、よりよい授業を計画するのに役立つことがわかりました。

いままでの古典的な学習方法では、日本語能力試験のN1、N2レベルに到達することが難しかったため、学習者のニーズやゴールに向けた学習内容を検討する必要があります。たとえば、学習者の就職先でどのような日本語が必要かを知ったうえで指導できるようにするために、ニーズ調査もあわせて行う必要があるでしょう。

以上で私の報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



# 世界の文字体系から見た漢字と インドにおける漢字教育・学習の取り組み

プラシャント・パルデシ

こんにちは。ブラシャント・パルデシです。インド出身です。インドの長い歴史を千五百年くらい遡って話をはじめます。その後はキャンパスを世界の言語に広げて、世界の言語のなかで日本語の漢字はいったいどういう文字なのかを説明します。最後にカメラをズームインしてインドに戻り、インドで日本語学習者はどのように漢字を学んでいるかをお話しします。

## 日本語における文字使用の曙

日本では五、六世紀までは話し言葉のみで、書いているわけではなかったのですが、日本語の記録を遡って調べることはそれより前は不可能でした。中国から漢字を輸入したのが日本語の書き言葉のはじまりです。そのあとは平仮名、片仮名ができます。なぜ日本語の平仮名が「あかさたなはまやらわ」となっているかというと、それは当時のインドのシタン文字の配列をまねて作ったという歴史があるからです。

そのあと日本に漢字が輸入されるわけですが、さきほど加納先生の話にもありましたように、一つの漢字に複数の読み方がうまれます。いくつかも音読みがあったり訓読みがあったりします。これは世界でお

そらくはじめての実験です。私が学んだ言語のなかで、一つの文字にこれほど複数の読み方がある文字は見たことがありません。これは人間が作った非常に完璧なシステムの実験の成功例だと思いますので、日本の皆さんは、漢字に誇りを持つべきだと思います。

世界には六千から七千ほどの言語があるといわれています。方言と言語の境目は簡単には決められないので正確な数はわかりませんが、そのなかで、文字で書かれている言語はかなり少ないのです。いまでも文字をもたない言語はたくさんあります。それらの言語のなかで、その言語を記録しようとしたとき、どんな文字体系が考えられたかを、最初にお話しします。ですので、発表の構成ですが、まず世界の文字体系から見た日本語の漢字を見ること、そのあとにインドにおける漢字教育について話します。三十年以上も前に、私

### プラシャント・パルデシ (Prashant PARDESHI)

国立国語研究所教授。インド・ブネー市生まれ。2000年、神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了(博士(学術), Ph.D.)。専門は言語類型論、対照言語学。著書は『自動詞・他動詞の対照(シリーズ言語対照<外から見る日本語>第四巻)』(共著:西光義弘、くろしお出版、2010年)、『言語のタイポロジー認知類型論のアプローチ(講座:認知言語学のフロンティア 第五巻)(講座:認知言語学のフロンティア)』(共著:堀江薫、研究社、2009年)。



はインドで日本語教師をやっておりました。その前は日本語学習者でもあったので、その体験に基づく話を最後のほうで少しお話ししたいと思います。

## 第一部 世界の文字体系から見た日本語漢字

世界にはいろいろな言語があります(図1)。皆さんがなじみのあるのは、アルファベットで書ける青色の国の文字です。英語を勉強すると、二十六文字でなんでも書けるという非常に幸せな世界があるわけです。また、ピンクのキリル文字の国にいくと、私の名前のプラシャントのPは、キリル文字でRと書きます。私の名前の綴りにRがでてきますが、キリル文字でRはPと書きます。そうすると頭がこんがらがって、同じ文字なのに、なんでこんなことが起こるのか不思議に思います。

そして、このような多様な世界の言語において、日本は壮大な文字実験が行われている現場といえます。さらに、インドと日本が非常に深い関係があるということを、あとで話をしたいと思います。

世界にいろいろな言語があつて、その言語はいろいろな文字を使って言語を書いているわけです。それで、いったい何を書くのかということですが、どういう単位でものを書くのかは非常に大事です。たとえば、「語」を書く。加納先生の話のなかにはありますが、漢字という文字は、ことばを書いている、語を書いているのです。これは、エジプトのヒエログリフと同じです。図2のヒエログリフは鳥です。トンパ文字も、世界のなかで唯一生きている絵文字だといわれています。

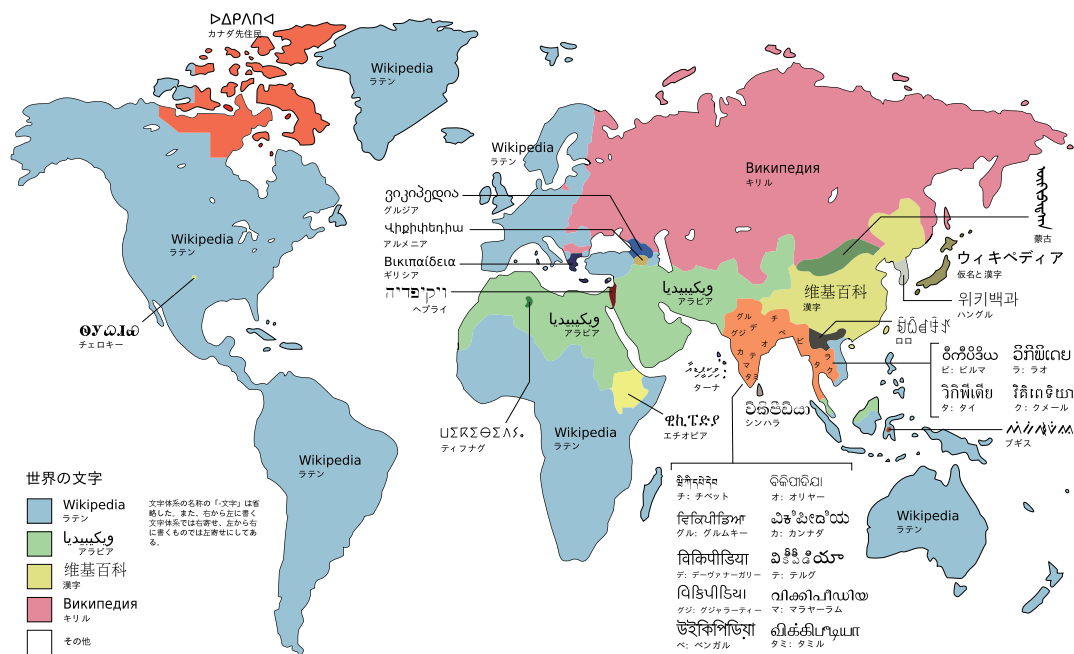


図1 世界の文字の多様性  
(文字体系の一覧。出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)



文字が表す単位	代表例
語	ヒエログリフ:  トンパ文字: 
	漢字: 加
音 節	仮名: か、力
音 素	ラテン文字: k, a, ...
	デーヴァナーガリー文字: क + अ → का
	アラビア文字: ك ← ا + اء

図2 世界の文字体系の類型

文字が表す単位	呼び名[日本語・英語]
語	象形文字(logograph): ヒエログリフ、トンパ文字 表語文字(logograph): 漢字
音 節	音節文字(syllabary): 仮名
音 素	アルファベット(alphabet): ラテン文字 (文字名の由来: ギリシア文字の最初の2文字)
	アブギダ(abugida/alphasyllabary): デーヴァナーガリー文字 (文字名の由来: エチオピアで使われるGe'ez文字の最初の4文字)
	アブジャド(abjad): アラビア文字 (アラビア文字の最初の4文字: "A" (alif), "B" (bā'), "J" (jīm), "D" (dāl))

図3 世界の文字体系の類型

そして、「音節」を書く。音節というのは、発音できる最小の単位です。つまり、母音がないと発音できないわけですので、子音と母音が一緒になって音節を作るわけですが、その音節を書く。ですから、仮名の「か」をローマ字で書くと「ka」、子音があつて、子音のあとに母音がつく形になります。日本語の文字を勉強した時、私は最初の授業に、「か」という文字がでてきたとき驚いてしまいました。「か」と「き」のあいだに形の上でなんの関係もない。形はまったく似ていない。「く」がでてくると、また別の形がでてくる。「け」がでてきたら、また別。英語であれば、kがあつて、それに「a i u e o」がついていくというように分析できるのですが、日本語の漢字だけではなくて平

仮名にもびっくり。外国人から見ると、これはいったいどういう文字なのかと驚くわけです。

実際には、「音素」を書く言語が、世界には非常に多いのです。音素は、言語のなかで一番小さい単位といわれています。その小さい単位には発音できないものもあります。母音と子音を分けて書く文字が、図2にも三種類あります。ラテン文字のように、kという子音があつてaという母音があり、両方を対等な立場で書くわけです。デーヴァナーガリー文字はインドで使われている文字で、それとアラビア文字があります。これらについて詳しい話をします。

## 世界の文字体系の類型

大きな分類をすると、図3のようになります。上のほうが意味を表している文字で、下のほうが音を表している文字です。意味を表しているもののなかにもいろいろあつて、音を表すもののなかにもいろいろあります。それぞれ名前がついています。文字があると必ず名前があるわけです。それぞれの文字は、どのように呼ぶのかというと、文字が語を表すのは、象形文字といったりヒエログリフといったりします。抽象的な名前では、象形文字はロゴグラフ(logograph)と呼ばれます。表語文字もロゴグラフです。音節を表している文字のなかにいろいろな名前があります。よく日本語の文字を見ると、japanese syllabaryと書いてあります。これは音節(syllable)を意味するといふ意味です。

次はラテン文字ですが、ギリシア文字の最初の二文字、α(アル



ファー)とβ(ベータ)をとってアルファベットと呼んでいます。また、インドの文字デーヴァナーガリー文字は、アブギダまたはアルファシラバリと呼ばびます。なぜ、アブギダと呼ぶのかというと、エチオピアで使われているギース文字の最初の四文字です。もう一つ、アブジャドがあります。これはアラビア文字の最初の四文字、A (alif)、B (ba)、J (jim)、D (dal)を組み合わせたものです。

それぞれの文字の種類に名前がつけられているわけですが、それを見ると、仮名文字は母音と子音が合体しているの、字の形はそれぞれ異なるわけです。アルファベットは、k i のように、子音があつて母音があり、両方対等な関係で書いている。アブギダは子音を中心とします。母音は二次的です。ですから、図4のように、「k」という子音があつて、これがaがついたら「ka」になる。また、「k」という子音に「i」がつくと「ki」になる。図4のk a, k i, k u, k e, k oみたいに、母音は子音の右隣に書いたり、左に書いたり、上に書いたり、下に書いたり、右側に隣と上に書いたり、いろいろな形で、母音はあとから付随的につけていくという感じの文字です。

アブジャドは世界の文字のなかで非常に変わっている文字です。母音は付随的で、多くの場合、書きません。子音だけで書きますので読むのが非常に難しいのです。

それぞれの文字の分布を世界地図で見ると(図5)、その分布は歴史

- ・ 音節文字：母音と子音の区別なし。  
か、き、く、け、こ
- ・ アルファベット：子音と母音が区別され、対等な関係にある。  
KA KI KU KE KO
- ・ アブギダ：子音を中心とし母音は二次的  
k + आ → का ; k + इ → कि  
क का कि के कु को
- ・ アブジャド：母音は付随的、多くの場合表記しない。詳細は後ほど。

図4 世界の文字体系の類型

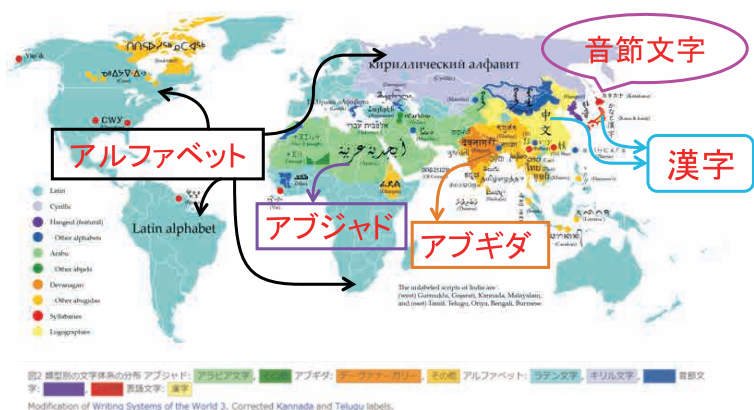


図5 世界の文字類型とその分布  
(文字体系の一覧。出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

を物語っています。イギリス、ポルトガルは世界中のいろいろな国を支配していつてアルファベットを広めたわけです。イスラム教とともにアラビア文字が広まり、仏教とともに漢字が中国、韓国を経て日本に伝わりました。文字はこのように移動します。人間と同じように移動していくのです。

図6は象形文字のトンパ文字です。雲南省のあたりでは、まだ書か





図6 象形文字(トンパ文字、東巴文)

(Source: sagastamp.com, [http://blogs.yahoo.co.jp/hiromasa\\_0521/17478191.html](http://blogs.yahoo.co.jp/hiromasa_0521/17478191.html))

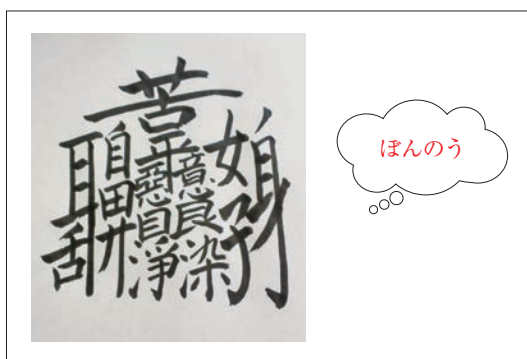


図7 表語文字(漢字)

(Source: Twitter/take0531ahaaan)

母音	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ
子音		ㄱ	ㄲ	ㄴ	ㄷ	ㄸ	ㄹ	ㅍ	ㅑ	ㅣ
ㄱ	가	갸	거	겨	고	교	구	규	그	기
ㄲ	까	갸	꺼	껴	꼬	교	꾸	규	크	끼
ㄴ	나	냐	너	녀	노	뇨	누	뉴	느	니
ㄷ	다	댜	더	더	도	도	두	듀	드	디
ㄸ	따	댜	터	터	토	토	투	튜	트	티
ㄹ	라	랴	러	려	로	료	루	류	르	리
ㅍ	파	뵤	퍼	뵤	포	포	푸	퓨	프	피
ㅑ	마	먜	머	뵤	모	묘	무	뮤	므	미
ㅛ	바	뵤	버	뵤	보	보	부	뷰	브	비
ㅜ	사	샤	서	셔	소	소	수	슈	스	시
ㅠ	아	야	어	여	오	요	우	유	으	이
ㅡ	자	쟈	저	져	조	조	주	쥬	즈	지

図8 音節文字（ハングル）

(Source: <http://www.k-plaza.com/korean/kouza/hansetsuhyou.html>)

れているようです。ネットで探してみると、雲南省のどこかで図6のように壁に楽しくいろいろな文字・絵が描いてあって、これを読める人がいるようです。実際にこのような文字が存在しているそうです。

図7の漢字、読める人が何人いるでしょうか。「ほんのう」と読むそうです。概念も仏教からきていて非常に複雑で、文字も複雑になっています。

【図8】はハングル文字です。これはアブギダです。【図8】のように子音が並んでいて、母音と子音を組み合わせています。韓国語ではまずこれを習うわけです。韓国語の授業では、ハングルは非常に科学的な文字と説明するわけですが、韓国の人が知らなくてはいけないのは、これはインドの文字を真似て作ったシステムであるということです。

もともととはシタン文字を真似て、そこからできています。

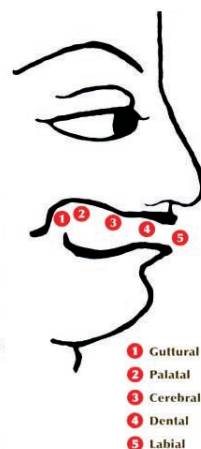
【図9】は、ロシア語を書くために使うキリル文字です。これを見ると、だんだんアルファベットも自信がなくなってきました。一定の地域の人には読めるのですが、昔、私が子どもどものときは「USSR」、なつかしいですね。当時の「ソビエト社会主義共和国連邦」の略称をキリル文字ではCCCPと書くのですが、これをどうやってUSSRを読むのかと、子どもながらに疑問に思ったことがあります。このような文字もアルファベットの仲間です。

音素文字のインドのアプギタは、非常に科学的なものです(図10)。世界で一番古い文法書といわれているパーニニというインドの言語学者による『アシュターディーヤリー』という本で、音声の話を最初に書

а	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
[a]	[b]	[v]	[g]	[d]	[ye]	[yo]	[dz]	[z]	[ɪ]	[y]
к	л	м	н	о	п	р	с	т	у	ф
[k]	[l]	[m]	[n]	[o]	[p]	[r]	[s]	[t]	[u]	[f]
х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э	ю	я
[kh]	[ts]	[ch]	[sh]	[shh']				[yi]		
								[e]	[yu]	[ya]

図9 音素文字：ロシア語のアルファベット  
(Source: <http://wayhome.exblog.jp/13875161>)

Vowels	
अ a	आ ā
इ i	ई ī
उ u	ऊ ū
ऋ ṛ	ॠ ṝ
ऌ ḷ	ॡ ḹ
ए e	ऐ ai
ओ o	औ au
ॠ ṝ	ॡ ḹ
r̄h (anusvāra)   ḥ (visarga)	
Consonants	
Gutturals:	क ka   ख kha   ग ga   घ gha   ङ ṅa
Palatals:	च ca   छ cha   ज ja   झ jha   ञ ña
Cerebrals:	ट ṭa   ठ ṭha   ड ḍa   ढ ḍha   ण ṇa
Dentals:	त ta   थ tha   द da   ध dha   न na
Labials:	प pa   फ pha   ब ba   भ bha   म ma
Semivowels:	य ya   र ra   ल la   व va
Sibilants:	श śa   ष ṣa   स sa
Aspirate:	ह ha   s = ' (avagraha) - the apostrophe



अ	आ	इ	ई	उ	ऊ	ऋ	ॠ	ए	ऐ	ओ	औ
क	ख	ग	घ	ङ	च	छ	ज	झ	ञ	ट	ठ
ड	ढ	ण	त	थ	द	ध	न	प	फ	ब	भ
म	य	र	ल	व	श	ष	स	ह	क्ष	त्र	ज्ञ

図10 音素文字：アブギダ  
(Source: <http://blog.luke.org/2008/08/02/528>,  
<http://indialoha.wordpress.com/2010/02/>)

いています。発音するときの並びは、口の一番奥からはじまります。このように、「か」からはじめます。そのあとは、口の奥から前にという並びになります。この配列は非常に科学的で、どこに調音点があるのか、どのような調音法で発音をしているのかがわかります。この文字の祖先が仏教とともに日本にやってきたという話は後半でやります。漢字以外でやっかいなものだと私が思っているのはアブジャド(図11)です。この文字は、右から左に読みます。左から右ではありません。それぞれの字は三つの形があります。図11はミームという文字で

すが、語頭にきたときはこう書きます。真ん中にきたらこう書く、最後にきたらこう書く。一つの文字に三つの形があつて、これをつなげていくわけです。そのため、単語を読むとき、この文字がどこにきているかということをも意識しないといけないのです。さきほども申し上げましたように、この言語では、子音だけを書く。母音は子どものために、あるいは教育書のようなものにのみ書きますが、通常の表記においては、母音を表す記号が省略される。主に教育、解説書、コーランには必ず母音がつきます。間違った読み方はだめだからです。

ですから、**図12**では、文字の上に母音記号がついています。このようなものを書くことは、普段はしません。

アラビア語の一つの文章を**図13**に書きましたが、ここに長いものがあって、これで一つの文になっているわけですけど、さきほど説明したように、このようにグニャグニャとついでこのような形になるわけです。そして、上と下を見てみると、ここでは母音を書いています

が、上のほうには母音はありません。普通はこのように書きます。たまに下のようには書きます。こちらは主に子ども用です。**図13**は、「彼らはあなた方を歓迎するでしょう」という文です。赤で書いているものは母音を表しています。上にはそれがありません。子音だけでこう読んでもきます。ところで、私は一年前からアラビア語の授業にでているのですが、知っている単語であれば読める、知らなければ読めません。こ

أ	ب	ت	ث	ج	ح
خ	د	ذ	ر	ز	س
ش	ص	ض	ط	ظ	ع
غ	ف	ق	ك	ل	م
ن	ه	و	ي		

基本字母28字。内22字は単独形、頭字(語頭)、中字(語中)、尾字(語尾)がある。  
右から左の順で書く。

م م م م  
(語末) (語中) (語頭) (単独形)

**図11** 音素文字：アブジャド  
(Source: <http://jsdqatar.com/arabic.html>,  
agata.ciao.jp, obun.jp, Wikipedia)

アラビア語の母音は、基本的にア/a/、イ/i/、ウ/u/の3つ、およびそれを長音化したものと、組み合わせた二重母音のみである。通常の表記においては母音を表す記号が省かれ、主に教育・解説用のテキストでのみ用いられる。

母音記号付き  
ال س ل ا م ع ل ي ك م  
ال س ل ا م ع ل ي ك م  
assalamu'alaikum (あなたの上の平和を): こんにちは

**図12** 音素文字：アブジャド  
(Source: <http://jsdqatar.com/arabic.html>,  
agata.ciao.jp, obun.jp, Wikipedia)

←  
سيستقبلونكم m k n w l b q t s y s 母音記号なし  
سَيَسْتَقْبِلُونَكُمْ m u k a n ū l i b q a t s a y a s 母音記号付き

sayastaqbilunakum 「彼らはあなた方を歓迎するでしょう。」

**図13** 音素文字：アブジャド  
(Source: 新妻仁一教授(私信))



れは漢字もまったく同じです。知っていれば読める、知らなければ辞書を調べる。それはよいのですが、アラビア語の場合、辞書で調べられるようになるのは五年くらいかかります。すべての文法を知らないで辞書のなかに書いてある形にたどり着かないからです。日本の漢字辞典は、部首を知っていればたどり着くことができますから、せいぜい数か月の話です。アラビア語の場合はそういうわけにはいきません。ですから、漢字学習者に、「あなたがやっている作業はまだまし、楽。もっと難しいことをやっている人がいます」と言えるのです。

次は、私がなぜ漢字を勉強したかについてお話ししたいと思います。私はアルファベットの書きました。インド人ですからアブギタもできました。アラビア文字はインドで勉強していました。唯一残っていたのが漢字でした。漢字ができれば、私は世界の文字を一〇〇パーセント制覇することができると。それぞれの言語の学習者に、あなたはいままで六割なのか七割なのかを示して、残りを制覇すればおもしろいのではないか、自慢話ができるかもしれない。飲み会でそういうネタで話を広げることができるかもしれない、という楽しい発想からモチベーションが生まれてきたのかもしれない。

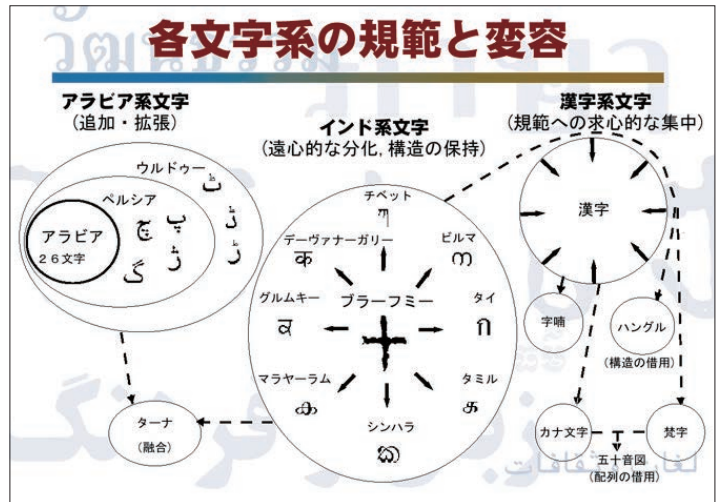


図14 文字の影響：インド系文字→五十音図  
(Source: <http://www.aa.tufs.ac.jp/i-moji/what/kihan.html>)

## 文字の影響

インドから仏教とともにインド系文字が中国に伝わって、中国から韓国にはいつて、韓国から日本にやってきて、図14のような文字がいろいろできました。さきほど五十音図の話をしました。インドのシタン文字の影響は、日本の文字にもあります。どうしてあるのでしょうか。

玄奘三蔵の話、西遊記はみなさんご存じかと思いますが、長安という町から玄奘三蔵はナランダーというインドの町にいつて、そこでサンスクリット語を学んで、約五年間インドに滞在しています。そのあと、仏典をもって長安に帰って翻訳を行う(図15)。これは、たぶん世界でまたとない壮大なスケールで、そして、無償で翻訳されたものも大きな事業だと思います。飛行機はありませんから、歩いたり、馬にのったりいろいろな苦勞をして三蔵法師が仏典を中国に持ち帰り翻訳したわけです。

西安にいくと、お寺があります。そこに弘法大師は修行にいつています(図16)。そこで空海はまず仏典を学び、日本に帰国してから仮名ができるわけです。そういう壮大な話があつて仮名ができています。中



629年に陸路でインドに向かい、巡礼や仏教研究を行って645年に経典657部や仏像などを持って帰還。

玄奘 三蔵 (602~664年) は、唐代の中国の訳経僧。

#### 図15 文字の移動：インド系文字→カナ文字

(Source: todaibussei.or.jp, Wikipedia, emiliasekai1.blog.fc2.com)



弘法大師・空海は恵果和尚から密教の教えを受けた(遣唐使として804年に渡唐し806年に帰国)。

#### 図16 文字の影響：インド系文字→五十音図

(Source: <http://isamusouma.web.fc2.com/43seian.html>)

国から漢字がはいってき  
て、仮名はそのあとに作ら  
れて、日本語は漢字と仮  
名を混せて書く言語になっ  
て、そのあとにはいろいろ  
あるわけです。ですから、  
インドで私が日本語を学ん  
だときに最初に驚いたのは  
仮名でした。これは母音と  
子音が合体している、初め  
て見た文字です。私が漢字  
を勉強したのは、その一年  
後でした。最初は楽しく、  
最初の授業は「あ」だけを  
学びました。そのあと一週  
間かけて「い」にいくとい  
うような、ゆっくりコース  
で、五十種ある平仮名を  
一年間かけてマスターしま  
す。そのあとは漢字にしま  
しょう、その方法は非常  
によかったなと、今思いま  
す。



## 第二部 インドにおける漢字教育・学習の取り組み

いままで七世紀の話をしていました。西遊記では、七世紀には三蔵法師は漢字という文字を母語にもちながら、インドにいつてアブギダであるサンスクリット語の文字を勉強しました。現在ではなにが起こっているかという、インド人のアブギダという文字を知っている人が漢字と仮名を学ぼうとしています。時代が変わりました。移動の方法も変わりました。ですので、インド人は、いままで他の人に教えることが多かったのですが、今度は学ぶ立場になるので、三蔵法師の悩みがわかると思います。

### 文字の池から文字の海への挑戦

インド人の学習者はインド系の文字、母音と子音をあわせて約五十個の文字を知っています。一方、日本語の常用漢字は二千百三十六字ほどあります(図17)。インド人から見るとなんと約四十倍です。「インド人もびっくり。」

このフレーズはどうしてそのようになったのかわかりません。インド人だってびっくりしないことはない。普段びっくりするわけですけど、どつかのステレオタイプに、インド人はびっくりしないという前提条件があつて、それによって、この表現がうまれたのだと思います。私も普段、よくびっくりします。

さらに、数だけの問題ではありません。読み方が複数あります。最初に生年月日、あなたはいつ生まれましたか、みたいな文がでてきた

りしますが、学生の「生」の漢字を日本語教育で最初に学ぶわけですが、これがものすごい。四十七個くらいの読み方があるらしく(図18)、非常に複雑な字です。これをいつぺんには覚えられないので、徐々に徐々に覚えていきました。ああ、こういう読み方もある、こういう読み方もある、たまにはこんな読み方もあったりしますといったように。

さらにさらに、画数の多い

文字もたくさんあります(図18)。最初は非常にやさしい字、川とか山、木を見て、ああなるほどと意味を書いてみるとわかります。そのころ私が一番関心をもった、「愛」はどう書くのでしょうか。そのとき私は十八歳くらいでしたので、この概念はどうやって漢字で書くのか、英語ではどうやって書いたら愛が伝わるかということでした。そのようにさまざまな目的で文字を学ぶことをはじめました。

でも漢字を勉強してわかったことは、図18の魚偏のついた漢字を見ると、みんな左に書くサカナという意味を表すものがあつて、右にそれをどう読むかというようなものがあることは、あとから知って、非

- ・ インド人日本語学習者：インド系文字(アブギダ)
- ・ 母音と子音を合わせて約50個  
VS
- ・ 日本語漢字
- ・ 常用漢字表：2010年(平成22年)11月30日に平成22年内閣告示第2号として告示され、2,136字／4,388音訓[2,352音・2,036訓]から成る。
- ・ インド人から見ると字数はなんと約40倍!!!  
インド人もびっくり!!!

図17 文字の池から文字の海への挑戦

常に楽しかったです。

さらにさらにさらに、同じ字なのに読み方が異なる場合もある。われわれの研究所は国立の近くにありますが、この国立国語研究所は、「クニタチコクゴケンキュウジョ」と読むのか、「コクリツコクゴケンキュウジョ」と読むのか。市場（シジョウ、イチバ）、意味が違いますね。スケールがぜんぜん違いますね。イチバといったらローカルで、シジョウといったらグローバルということになります。かなり意味の広がりがあります。

さらにさらにさらにさらに、母語話者も自信をもって読めない人名、地名、当て字があります。こ

・ さらに多くの字に読み方が複数ある!!!!

生む(うむ)、生きる(いきる)、生える(はえる)、生い立ち(おいたち)、生田(いくた)、生ビール(なまビール)、生業(なりわい)、生活(せいかつ)、生涯(しょうがい)、弥生(やよい)、桐生(きりゅう)、……47個あるらしい!!

・ さらにさらに画数の多い字も少なくない!!!!

鯉(かつお)、鰯(はたはた)、鰻(ます)、鱈(きす)、鱧(はも)、鱸(すずき)、鯉(ひがひ)……

図18 文字の池から文字の海への挑戦

これは留学生にとっては救いです。日本人も読めないんだったら僕も大丈夫。ですから、これを授業でやるときに最初にいふべきです。「日本人もすべての漢字を読むことはできない。すべてを書けることはさらにない。あなたは日本人のなかで完璧なほうではなくて、下のほうにはいるかもしれない。けれども勉強すれば真ん中ぐらいにいつて、場合によっては、日本人を超えることもあるかもしれない」。

本当にそういうことはありうると思います。

ほんとうにびっくりするのは、読み方が書き順と逆になっているケースがあることです。「不忍通り(しのばず通り)」、これは実際に存在するわけですね。これは文字と読みの順番が逆になっています。中国語の語順が使われています。そして、新しいコンピュータ・シミュレーションもあります。「*creating tomorrow*」は、どう読むでしょう。これは私の言語学の授業で課題としてよく出しているのですが、「ソーイングトゥモロー」なのか、「クリエイティングトゥモロー」なのか、どう読むでしょう。どなたか答えを教えてください。

## インド人学習者に残された道

インド人の学習者にとって漢字は難しいのです。けれども、残された道はなんなのかということ、私が自分の授業でいつてきたことを、みなさんにお伝えしたいと思います(図19)。

「我慢してひたすら字を書く練習をする」。

これが大事です。なにことも。よく皆さんにいつているのですが、なにかを得るため



に、なにかを失わなければならない。なにを失うかといったら、自由時間を失う。勉強する時間を増やす。それが学問をやるために絶対に必要なことです。

もう一つは、「百回以上書き、身体で覚える」。日本人もよく字を忘れたりすると、空文字みたいなものを書きますね。手が覚えているのですが、頭が忘れていることがあります。これも授業でいいました。日本人だって忘れる。手を動かしたらでてくる。とにかくたくさん書いて、手をなれさせる。この字だったらこう、手が動くことが大事。

また、「読み方を丸暗記する」。これ以外に方法はない。近道はない。熟語も、最初は丸暗記する。そのうちに、あなたは自分で分析できるようになる。もう少しお待ちください。とにかく、最初に五百の文字を我慢強く覚える。これは化学の物質の周期表と同じです。酸素と水素がまじったら水ができる。そのあとは、たとえば別のものとなにか一緒にすると化学反応によって結果（つまり熟語）が異なるわけです。その一番よい例は、たとえば、「長」という字を学ぶときです。これはチョウと読む。それだったら社長からはじめて、部長、次長、課長、係長、いろいろなことばを作ればよい。同じチョウと読む。それが最初にあった、長男であるとか長女とかということになる。ですので、こういう組合せはいろいろあります。右左、上下いろいろな字を入れてみて、どういう単語が作れるかを楽しく考える。これさえ我慢できれば、この最初の五百文字を突破することができれば、幸せが待っています。

どういう幸せかというと、それは初めて、なにか新しい漢字を見て、意味が理解できるという幸せです。

## 漢字の長所

「卒原発」。以前の選挙で聞いたのですが、私も今では完璧に意味がわかります。「脱原発」もわかりました。これらは、まだ辞書に載っていないと思います。また、いくらかも長い単語を自分でも作ることができる。私が作ったのがこれです。

「NINJALフォーラム企画委員会設置規定改正検討作業部会報告書 原案作成作業」という一つの単語です。「使用済み核燃料廃棄物処理計画実施検討委員選出」というようなものを遊びで作ることができます。

どこまでできるか、自分でやってみてください。

また、多くの情報をコンパクトにまとめられる。これは漢字の最大の力です。たとえば、「分煙」。Wikipediaには「分煙とは、受動喫煙の防止を目的とし、不特定多数の人が利用する公共の場所や施設等において、喫煙場所となる空間と、それ以外の非喫煙場所となる空間に分割する方法である」という長ったらしい説明が書いてありました。日本語でたった二つの文字「分煙」でこの長ったらしい説明をコンパクトに表現できます。英語に翻訳するのが大変です。雨天決行など、英語のパンフレットを見るとどう説明するのかなあと、毎回その翻訳を楽し

- ・我慢してひたすら字を書く練習をする！
- ・100回以上書き、体で覚える！！
- ・読み方を丸暗記する！！！！
- ・熟語も丸暗記する！！！！
- ・とにかく最初の500字を我慢強く覚える！！！！！！
- ・この500字の坂を登れば、幸せが待っている！！！！！！

図19 インド人学習者に残された道



図20 お勧めの参考文献

『図説 世界の文字とことば』  
町田 和彦(編集)  
河出書房新社(2009/12/16)  
ISBN-10: 430976133X  
ISBN-13: 978-4309761336

しみにしているのです。  
最近テレビで流れているコマーシャル、「発電、蓄電。売電で節電」。ヤマダ電機だったと思います。こういうものをはじめて見ても、私はもう、目で情報がとれるようになりました。昔は、インドにいたとき耳で情報をとっていました。最近、字を見て楽しんで、目で意味を理解している。場合によっては、自分で新しい単語を作っている。こ

れが漢字の最大の力ではないかと思っています。  
世界の文字について知りたいのなら、私も日本の文字について書いている『図説 世界の文字とことば』という本があります(図20)。どうぞ書店でお手に取ってみてください。ご清聴ありがとうございます。

# キルギスの漢字教材『漢字物語』

## キルギス共和国ってどんな国

皆さん、こんにちは。ガリーナ・ヴォロビヨワと申します。キルギスからまいりました。このように自己紹介をすると、相手の日本人は、多くの場合、「ああ、イギリスね」「すいません。イギリスではなくてキルギスです」「ギリシア?」「いいえ、ギリシアではなくてキルギスです」「ああ、キリギリス」と。いまでも友人たちは、私がキリギリスに住んでいると信じているそうです。キルギスはあまり知られていないので、ちょっとだけ国の紹介をさせていただきます。

キルギス共和国は中央アジアに位置している旧ソ連の十五諸国の一つの国です。一九九一年に独立しました。図1の左上に国旗と国章を、右下に、キルギスの民族衣装と昔遊牧民族だったキルギス人が使ったフェルトの組み立て式の家を示します。キルギスの北はカザフスタン、西はウズベキスタン、南はタジキスタンと中国です。キルギスはとてもきれいな国で、中央アジアのスイスと呼ばれています。人口は約五百万



図1 キルギス共和国



ガリーナ・ヴォロビヨワ (Galina VOROBEVA)

元キルギス国立総合大学上級日本語講師／国立国語研究所共同研究員。博士(日本語教育研究)。2000年から2004年までキルギス日本語教師会会長を務める。専攻は数学、研究分野は漢字教育である。著書は『漢字物語』(キルギス、ビシケク、2005年)、「An Analysis of Efficiency of Existing Kanji Indexes and Development of a Coding-based Index」(共著 OPEN JOURNAL SYSTEMS: Acta Linguistica Asiatica, Vol. 2, No. 3, pp.27-59, Slovenia, University of Ljubljana, 2012)、『構造分解とコード化を利用した計量的分析に基づく漢字学習の体系化と効率化』(東京、ノースアイランド、2014年)など。

ガリーナ・ヴォロビヨワ



人、面積は日本の約半分、二十万平方キロメートルほどです。首都はビシケクです。国語はキルギス語、公用語はロシア語です。

## キルギスの漢字教育の問題点

キルギス共和国での日本語教育は、キルギスが旧ソビエト連邦から独立した直後の一九九一年に始まりました。現在は十六校の教育機関で日本語教育が行われ、学習者数は約七百八十人です。日本語講師数は四十六人で、そのなかの三〇パーセントぐらいが日本人講師です。キルギスの漢字教育には他の国と同じようにいろいろな問題があります。キルギスの漢字教育の主な問題点は次のとおりです。

まず、漢字教材の不足です。また、教師の教授法の知識不足です。一斉授業では主に文法や会話に時間を使うため、漢字指導の時間に制約があります。そして、主な学習法は、丸暗記です。

私の今日の報告のテーマは教材作成です。いい教材を作るためにはまず、漢字学習にどんな問題があるかを詳しく分析することが必要だと考えました。漢字学習の十六点の問題点を確定して、三つのグループに分類しました。加納先生はここですでに詳しく問題点についてお話しなさいましたから、そのテーマに少しだけ触れることにします。

第一のグループは、漢字そのものに内在する問題です。学習すべき漢字の数が多く、漢字の字体が複雑です。一つの漢字を覚えるとき、個々の漢字にかかわる情報が多く（形、意味、読み方、筆順、部首、熟語など）、同時にたくさん覚える必要ありません。そして、形、意味、読み方のあいだの関連性がわからないということも

あって、音訓読みも複数存在しています。

第二のグループは、教授法の問題です。現場で多くの場合丸暗記を基盤とする非体系的な指導法が行われています。漢字の学習配列は合理的ではないこともあります。たとえば、簡単な漢字が複雑な漢字のあとに出て、複雑な漢字の構成要素も、その複雑な漢字のあとで教えることがあります。もう一つ、漢字指導時間の制約があります。多くの場合授業が終わる前に教師は、「じゃあ、もう時間がなくなつたので、漢字は家で自分で覚えなさい」ということがあります。そして今、コンピュータとインターネットの時代になっているにもかかわらず、ICTは漢字の指導であまり使用されていないことです。

第三のグループは、学習者の漢字認識の問題です。非漢字圏の日本語学習者は、アルファベットなどに慣れていて、随分異なる漢字を非体系的に感じています。ロシア語のキリル文字やローマ字と比べたら漢字は形が複雑で、どの順番に辞典で並べてあるか、どのように調べるかわかりにくい文字です。たとえば、アルファベットやキリル文字を覚えるともう一生忘れませんが、漢字を一時的に覚えても定着できないことが少なくありません。また、漢字辞典の調べ方が難しく感じます。たとえば、ロシア語の辞典では、単語はキリル文字の順番で調べますが、漢字には、音訓索引、総画索引、部首索引などがあるため、非漢字圏日本語学習者にとって使いにくいのです。

## 連想記憶法に基づく漢字教材の開発

漢字学習の問題を分析したあとで、私は連想記憶法に基づいた二冊

の教科書を執筆しました(図2)。「漢字物語Ⅰ」は、初級Ⅰレベルの教科書で、漢字が二百二十字はいつています。「漢字物語Ⅱ」はヴィクトル・ヴォロビヨフと共同で作成しました。初級Ⅱレベルの教科書で、漢字が二百九十八字はいつています。漢字学習は非漢字圏の人にとつてとても難しいものなのでできるかぎり、楽しく学習させるための工夫をしました。タイトルを『漢字物語』にして、表紙を見ると『源氏物語』が思い浮かぶようにしました。それは学習者に親しみを持たせるためです。

表紙をできるかぎりきれいにすることは重要だと思ひます(図2)。この表紙には、紫式部と光源氏を見ることができます。でもよく見る



図2 『漢字物語』



図3 漢字の由来

と、紫式部のうしろに彼女の影があつて、源氏の下に『漢字物語』と書いてあります。これも学習者を喜ばせるのための工夫です。学習者が漢字を難しく感じないように、最初の段階で、漢字は楽しい、漢字はおもしろいということを示すために、図3のような写真を入れました。この写真には何が見えるでしょうか。

犬の足跡、人間の足跡、鳥の足跡ですよ。それは漢字の由来のストーリーです。古代中国の蒼頡(ツツグツ)という人は、湖岸に出て、いろいろな動物と鳥の足跡を見て、次のように考えました。「いま鳥も犬も人もいないけど、私は何がいたか、誰がいたかわかるから、いろいろな物事は、何かの文字で表すことができるのではないだろうか」。そう考え

島	N 517	意味	остров	語例 半島(はんとう) 列島(れいとう) 諸島(しよとう)  無人島(むじんとう)  島(しま) 島国(しまくに)  広島(ひろしま) 島国(みやまじま)	полуостров архипелаг острова, архипелаг необитаемый остров остров островная страна г. Хиросима о. Миядзима		
	N 新 480						
	読み 山 46	音読み	トウ				
	画数 10	訓読み	しま				
	2 級	筆順	LBHAAAGBEB				

---

鳥 + 山 → 島

Иероглиф「島」 объединяет「鳥」и「山」. В нижней части иероглифа вместо ножек птицы (一) изображена гора (山). Это остров, возвышающийся посреди моря, на котором отдыхают перелётные птицы.

「島」は「鳥」と「山」を合わせた字です。鳥の足 (一) の代わりに山が描いてあります。それは渡り鳥が休む海の平の山で、島りを家て囲まれた小さい土地です。

---

メモ

図4 『漢字物語』抜粋

て、漢字作りをはじめました。このような漢字の由来を学習者に紹介すると、「ああ、これは必要な、歴史的な文字だ。おもしろい文字だ。私たちの文字と違うが、とても大事な文字だ」と考えるようになると思います。

図4は、『漢字物語』の一ページの例です。ここに漢字そのもの、画数、意味、読み、部首、部首番号、ロシア語訳が付いている語例、日本語能力試験のレベルがありますが、中心になっているのは漢字成り立ちのストーリーです。たとえば、「鳥」は、「鳥」と「山」を合わせた字です。鳥の足のかわりに山が描いてあります。それは渡り鳥が休む海の中の山で、周りを水で囲まれた小さい土地、つまり「島」です。学習者はこのストーリーを読むと、漢字の形と意味を早く覚えて、ずっと覚えていて忘れません。

図4の黄色いアルファベット文字の列は、筆順を示しています。多くの場合は筆順を表すために、何回も文字に一つのストロークずつ加えながら書き直しますが、『漢字物語』では工夫して筆順をアルファベットの列で表しました。漢字のアルファベット・コード化について少しあとで説明します。他のストーリーの例も紹介します。たとえば、図5の「化」は立っている人「イ」と座っている人「ヒ」の二人の違う姿で変化を表します。つまり「座りました、立ちました。立っていて、また座りました」。そのあとさまざまな変化を表す漢字になりました。また、図6には漢字「弱」のストーリーがあります。「弱」は二羽の小鳥の絵です。小鳥は弱いですから、いつも一緒にいます。このストーリーも学習者にとって覚えやすく忘れにくいです。

『漢字物語』は二〇〇五年からキルギス日本センターの授業で使いは

じめました。その教科書は現在、キルギスだけではなく、ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、ロシア、日本などの国で使用されています。

## 漢字の指導法

効率的な漢字学習にとって漢字の指導法も重要です。私の専攻は数学のため、漢字を体系的に教えるような方法がないかと考えていました。私が日本語学習者だったときから、漢字を構成するストローク（漢字の画）の種類と数を知りたかったです。でも聞いた先生の中で誰も説明できませんでした。そこで、自分でその漢字を分解してスト

「化」は立っている人「イ」と座っている人「ヒ」の二人の違う姿で変化を表します。

図5 漢字を覚えるための物語（ストーリー）の例1

「弱」は二羽の小鳥の絵です。  
小鳥は「弱い」ですから、いつも一緒にいます。

図6 漢字を覚えるための物語（ストーリー）の例2

A	一	B	丨	C	乚	D	ㄥ	E	乚
F	冫	G	冫	H	冫	J	ㄥ	K	ㄥ
L	ノ	M	ㄣ	N	ㄣ	O	ㄥ	P	ノ
Q	、	R	乚	S	、	T	ㄥ	U	ㄥ
V	ノ	W	乙	X	へ	Y	ㄥ	Z	ㄣ

図7 漢字の画の種類

A	B	C	D	E
F	G	H	J	K
L	M	N	O	P
Q	R	S	T	U
V	W	X	Y	Z

図8 漢字の画の種類

- ◆片仮名は漢字の一部
- ◆片仮名と漢字の共通の画
  - 例 伊→イ 宇→ウ 江→エ
- ◆片仮名と漢字に含まれる画 15種類
  - {一丨ㄣㄣㄣㄣㄣㄣㄣㄣㄣㄣㄣ}
- ◆漢字のみの画 9種類
  - {ししくくうらし乙ろ}
- ◆片仮名のみの画 1種類
  - {へ}

図9 漢字と片仮名の画の分析

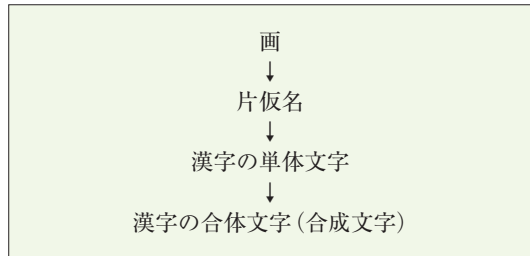


図10 階層的なアプローチに基づく画、片仮名と漢字の教育プロセス

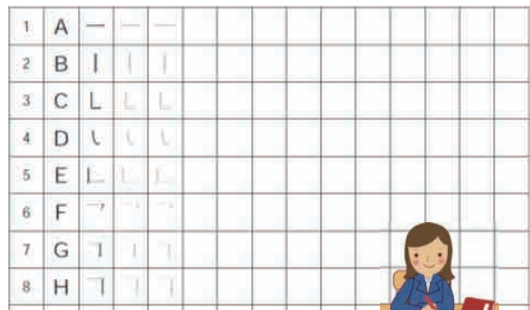


図11 画の練習シート

ロークを抽出しました。そしておかげ様で中国語の教科書でストロークの種類がはいっていた表を見ることができました。

ストロークの種類は全部で二十四種類あることを確定したため、二十六字のローマ字を使って、各々のストロークにローマ字を付けることができました(図7)。そのときアルファベットの形からストロークの形が連想できるようにしました。つまり各々のストロークは当てはまるアルファベットの一部分です。たとえば、「一」に「A」、「丨」に「B」というアルファベット・コードを付けました(図8)。漢字のストロークのアルファベット・コードを筆順に従って並べると、漢字のアルファベット・コードができます。そのコードで漢字の筆順を表すことができました。島の筆順を表したアルファベットの列を皆さんは

もう御覧になりました(図4)。このような筆順の説明を実際にしたとき学習者にとって分かりやすかったことが分かりました。

漢字入門を分かりやすくするためにもう一つのアイデアを生み出しました。皆さんもご存知のように、片仮名は漢字の一部を使って作られた文字です。そのため、片仮名と漢字のストロークの中に共通のストロークがあります。図9での赤の文字は、どの漢字から片仮名ができたかという例を示しています。分析した結果、片仮名と漢字に含まれるストロークは十五種類あります(図9)。漢字だけで使用されているストロークは、九種類です。そして、「へ」というストロークは漢字では使用されていなく、片仮名のみのストロークです。

そこで、階層的なアプローチに基づくストロークと片仮名と漢字の



左、江、外、加、多、名、伝

指導法を考えました。その教育プロセスは次の通りです。「画↓片仮名↓漢字の単体文字↓漢字の合体文字（合成文字）」（図10）。具体的には、さきにストロークを教えて、きちんと書かせて、そのあと片仮名を教えます。次に片仮名と同じ形をした漢字と簡単な漢字（たとえば、日、月）、その次には、合体漢字（合成漢字、組み合わせ漢字）（たとえば、日と月をあわせた「明」）を教えます。

ストロークをきれいに書かせるように練習シートも作りました（図11）。私はロシア語で使用されるキリル文字を覚えたとき、文字を書かせられる前にその文字のエレメント（構成要素）を書かせられました。そのおかげでキリル文字の書き方が分かりやすくなって、きれいに書けるようになりました。同じアプローチを片仮名と漢字に応用しまし

た。ストロークを教えるから片仮名を教える、それから片仮名と同じ形をしている漢字を教えます。たとえば、片仮名のエ、カ、タ、ニ、ロです。次に片仮名を組み合わせた漢字、たとえば、左、江、外、加、多、名、伝を教えます(図12)。実際にこの方法を使ったとき学習者は努力せずにいくつかの漢字の書き方をすでに覚えていることにとても喜んでいました。片仮名と漢字の形の類似点を説明することで、漢字初歩が楽になります。

次に、漢字の構成についてお話しします。アメリカの言語学者のチヨムスキーは、英語の文を階層的に分解して分析しました(図13)。

要素、つまりエレメントからできています。それは意味的な構成要素と意味のないストロークです。たとえば、「町」という漢字は、「田」と「丁」という構成要素からできています。その構成要素をもっと分解すると、ストロークになります。学習者にとって、このように分解された漢字は分かりやすくなります。漢字は怖い塊ではなくて、エレメントからできている文字です。そのエレメントの意味を知っていたら、ある程度全体の漢字の意味も予測できます。そして、漢字のエレメントであるストロークの書き方を覚えると、漢字もきれいに書けるようになります。

漢字の構造分解の方法を二つ考えました。一つは、線形構造分解、つまり、エレメントを一つの列に並べる方法です。漢字「露」は、



「雨」、「足」、「久」、「口」のエレメントからできています(図14)。そして他の方法でも同じ漢字を分解できます。それは階層構造分解です(図15)。その方法の特徴は、漢字をすぐ一番細かいエレメントに分解しません。たとえば、漢字「露」を最初に「雨」と「路」、それから「路」を「足」と「各」に分解して、そのあと「各」も「久」と「口」に分解します。そうすると漢字「露」は第一層、第二層、第三層のエレメントからできることが分かります。つまり、漢字「露」の中に、一番細かい四つのエレメントだけでなく、ちよつと複雑な中間漢字もはいつています。階層構造分解は漢字の構造を分かりやすくして、意味の理解の手助けになると思います。

## 漢字を覚える方法と手段

漢字の指導法にはさまざまな漢字を覚える方法と手段があります。たとえば、字体と意味を覚える連想記憶法としてすでに漢字「島」の例をあげました。そして、字体と筆順を覚えるための唱えことば、漢字字体の意味、読み方などを覚えるためのコンピュータソフトなどについてちよつと詳しくお話しさせていただきます。

私は一年生のころ日本語を教えていただいた萩原幸子先生に、漢字「熊」を覚えるための次の唱えことば「む、つき、ひ、ひ、とん、とん、とん、とん」を教えていただきました。漢字「熊」と同じように字体が複雑な漢字に構成要素としてはいつている簡単な漢字と片仮名とストロークを漢字の筆順に従って言うと言った漢字の「唱えことば」ができます。私は「熊」の唱えことばを教えていただいたおかげで字体が複雑なその

露 = 雨 + 足 + 久 + 口

図14 漢字の線型構造分解

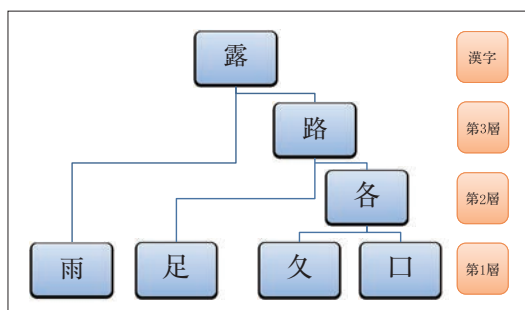


図15 漢字の階層構造分解  
露 = 雨 + 路(足 + 各(久 + 口))

漢字は、一生忘れられません。もつと簡単な漢字はもう忘れちゃったけど……。さらに漢字を覚えるために「マインドマップ」、「概念の地図」などいろいろな学習法があります。そして「漢字学習ストラテジー」のリストも作成され公開されています。

そして、さまざまな漢字学習用のソフトが作成されています。それをインターネットで見えることもできるし、買うこともできます。たとえば、『KanjiGold』というソフトは、漢字の意味や形を覚えたり、漢字の知識をチェックしたりする際に使えます。漢字成り立ちを紹介するアニメーションや筆順を示すソフトもインターネットにあります。

次に、ドイツの元大学準教授山田ボヒネック先生が開発した『KanjiKreativ』という、ソフトを紹介します。そのシステムは二段

階含んでいます。まず、旧常用漢字千九百四十五字を分解によって二百八十の構成要素（パーツ）を抽出して、それをアニメーションで学習者に視覚的に覚えさせます。つまり、漢字を習得するために学習者の頭の準備をしてから、次に漢字をエレメントから作ります。エレメントを加えながら、増分式で体系的に漢字を覚えさせるといようなアプローチです。そのソフトはドイツ語で作られています。

学習意欲を高める手立てのモデル

注意 (Attention) 「おもしろそうだな」

関連性 (Relevance) 「やりがいがありそうだな」

自信 (Confidence) 「やればできそうだな」

満足感 (Satisfaction) 「やってよかったな」

図 16 ARCS 動機付けモデル

例 注意 (Attention) に関するヒント

「目をぱっちり開けさせる：

A-1：知覚的喚起」

「好奇心をたいせつにする：

A-2：探求心の喚起」

- ・『千話一話漢字物語』という名前は『千夜一夜物語』（『アラビアン・ナイト』）にたとえる→興味を持たせる。
- ・『漢字物語』と『源氏物語』は音が似ている→いい気持ちを与える。



図 17 『千話一話漢字物語』

## 四種類の新しい教材の開発

次に、すでに開発された教材と、計画している教材についてお話をさせていただきます。

第一 教科書『千話一話漢字物語』についてです。まず、ARCS (Attention, Relevance, Confidence, Satisfaction) 動機付けモデルの話をします(図 16)。教材を開発するに当たって ARCS 動機付けモデルは手助けになります。ARCS 動機付けモデルは、ケラーと鈴木によって開発されたモデルです。注意 (Attention) は本屋さんか図書館で見ている本に対する「おもしろそうだな」という感想を表します。関連性 (Relevance) は「やりがいがありそうだな」ということを表します。そして、自信 (Confidence) の意味は「やればできそうだな」。さらに、満足感 (Satisfaction) というのは「やってよかったな」という意味です。

私が作成した教科書『漢字物語Ⅰ』と『漢字物語Ⅱ』には、漢字が約五百字入っています。いま目指している教科書は、『千話一話漢字物語』で、千字くらい含めるものです(図 17)。ARCS 動機付けモデルをもとに、教科書の構成と内容を考えています。たとえば、注意 (Attention) に関するヒントの中に A1「目をぱっちり開けさせる」や A2「好奇心を大切にする」というヒントを参考にします。本屋さんか図書館に行く人の知覚や探求心を喚起するような教材が魅力的な教材だとされています。その A1 と A2 に従って以下のような工夫をします。『千話一話漢字物語』という名前は、『千夜一夜物語』、つまり『アラビアン・ナイト』にたとえて、興味を持たせると期待しています。

そして、『漢字物語』と『源氏物語』は音が似ているので、人にいい気持ちを与えることも期待しています。

ところで、教科書にはいつている漢字の順番はとても重要です。合理的な順番を考えて、意味的なグループを作ったほうがよいと思います。しかし、意味的なグループを作ると簡単な漢字と一緒に複雑な漢字もはいります。だから、エレメントの意味から全体の漢字の意味が予測できるように複雑な漢字と一緒に、そのエレメントを教える必要があります。

数字を表す漢字を見てみましょう(図18)。数字の中に主に簡単な漢字がはいっています。『三』と『四』と『六』と『百』という漢字はそれぞれ二つの構成要素からできて、組み合わせ漢字であり、複雑な形をしています。その四つの組み合わせ漢字に『一』、『二』、『く』がまえ『口』、あし『儿』、なべぶた『土』、『八』、『白』という部首になっている構成要素がはいっています。それも一緒に教えることが必要だと考えています。

人間の漢字はほとんど簡単ですが、漢字『男』だけが組み合わせ漢字です(図18)。「男」の構成と意味を覚えるために一緒に二つの簡単な漢字を教えたほうがいいです。それは「田」と「力」です。構成要素を考慮して漢字をよく覚えさせるために次のストーリーを使うことができます。「男は力を使って田を耕しているのです」。

第二 デジタル漢字教材になる世界観の漢字意味ネットワークをご紹介します(図19)。漢字の二十二の意味的グループを確定して、二千百九十三の漢字をグループに分類しました。デジタル漢字教材を作成中です。その利用者は世界観の漢字意味ネットワークの樹形図か

グループ名	漢字	一緒に教える含有する構成要素		グループの中の合体漢字
		部首	準部首	
数字	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 百 千 万	一 二 口 儿 十 八 十 白	五 七 九 千 万	三 四 六 百
人間	人 女 力 男 母 父 子 口 目 耳 手 足	人 女 力 田 母 父 子 口 目 耳 手 足		男

図18 漢字の意味的グループの例

ら学習対象漢字が自由に選択できます。ハイパーリンクを利用して、選択した、漢字の意味的グループに移動できます。

第三 教材『コンピュータ日本語』を紹介します。今年作成された『コンピュータ日本語』は、日本語を第二外国語として学ぶコンピュータを専攻している大学生を対象とした教材で、中心は漢字表記になっています。漢字のアルファベット・コードを含むコンピュータ用語辞書もはいっています。また、日本語表記学習用ソフトの紹介と記述もはいっています。その中に仮名の学習、漢字の筆順の習得、漢字の意味と読み方の練習、漢字テスト、漢字の成り立ちのアニメーションな

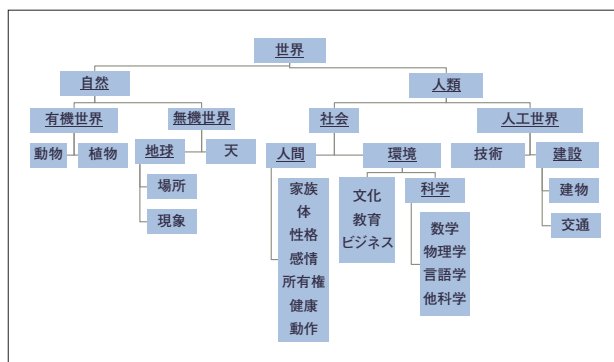


図19 世界観の漢字意味ネットワーク

どのソフトがはいっています。その教科書は以前紹介した階層的なアプローチに基づいています。

第四 ロシア語で作成した漢字指導の手引きを紹介します。それは、キルギス国立総合大学コンピュータ技術・インターネット学部の日本語サイトに公開しました。私が今日話したことの多くは、その手引きにはいっています。手引きをいつか日本語に翻訳して、日本語でも公開する予定です。

## まとめ

キルギス共和国は大きくなくて、世界であまり知られていない国ですが、そこでも日本語教育が盛んに行われています。そして漢字教育の体系化と効率化をするため、漢字教育研究が行われていて、それに基づき、非漢字圏の国の日本語学習者の考え方に相応しい漢字教材や教授法が開発されています。ご清聴ありがとうございました。



# 漢字を習うか漢語を習うか——語彙に基づいた漢字教育

アルド・トリニー

私はイタリアのヴェネツィア大学で古典語を教えています。ヴェネツィアは水の都として知られています。私は漢字、日本語を教えているわけではないのどうして漢字についてお話しするかというと、日本語教育に携わっていたことがあり、漢字教育についていろいろな論文を書いていたことがあるためです。そのことを思い出して、漢字教育はどうあるべきか少しお話しします。

## 問題の定義

ここでは、非母語話者、非漢字圏学習者、成人教育の日本語漢字教育を対象としています。日本語教育学では、普通、「文字教育」ということばがありますが、文字教育とはなんでしょう。「仮名教育」と「漢字教育」が、学習プロセスのすべてになっています。それは、「文字を知っていれば」日本語が読めるという前提に基づいたアプローチです。しかし、「文字を知っているから」といって、日本語を読む能力が高いという結論はだせないと私は思っています。漢字教育では、漢字を一つひとつ「形、意味(義)、読み(音)」を記憶して習います。これは普通の漢字教育です。読む際に、習った漢字の「形」を認識して、

「意味」と「読み」を思いだして、多数の選択の中で、前後の漢字と組合せ、最終的に「読む」ということにより、意味と読みを決定します。普通はこういうプロセスといえます。

ちよつと簡単な例ですが、二つの漢字でできた「東京」ということばです(図1)。「東」があつて「京」があるのですが、一番使われている読み「ヒガシ、トウ、アズマ」を並べて、この三つのなかで「トウ」という読みを選んで、「京」も「キョウ、ケイ、ミヤコ」のなかから一つ選んで、一緒に組み合わせ「トウキョウ」と読みます。同じように英語の場合だと、GOODという簡単なことばは、 $G(=g) + OO(=o) + D(=d)$ で、 $gog$ となります。GOODを読むとき、G、OOの形を見て、音を思い出し、OOは「o」と読んで、組み合わせ「ぐつ」と読みます。本当にそのような読み方を習うのでしょうか。



アルド・トリニー (Aldo TOLLINI)

カ・フォスカリ大学准教授。ヴェネツィア、イタリア。専門は日本古典語。2002年から2006年までイタリア日本語教育学協会会長。著書は、『黎明期の日本語書記言語と漢文』(上智大学国文学論集、平2012年)、『上古・中古時代の「さやけし」と「さや」語群をめぐって』(総合研究大学院大学・日本文学研究専攻、2010年)、『表記と表現—万葉集における多義性用字法の分析』(国学院雑誌、2007年)、ほか。



か。どうして「トウ」の音を選んで、「アズマ」を選ばないかという問題です。外国人として非漢字圏の学習者として私が漢字を習ったときに、そういう疑問があったわけです。

それだけではなく、たとえば、これも一つの外国人としてのアプローチです。「新東京国際空港」という簡単なセンテンスは、「新+東京+国際+空港」という文字の組合せになっています。つまり、**図2**のような仕組みです。「空港」は一つのことば、「国際」も一つのことば、「国際空港」は一つのユニット、単位になっています。「東京」は一つのことば、「新」も一つの字だけで一つのことばになっています。つまり、「新+「東京」「国際（空港）」」です。もう一つの読み方というと、新しい東京にある国際の空港です。

しかし学生は、「新東京国際空港」という漢字列を、「新東+京」、つまり「新しい東」の京と読む可能性がありません。なぜ、新しい東と読まないのか。これは、日本人には当たり前のことです。母語話者ですから当たり前のことですが、私たちは母語話者ではないので、どうやって区別するか、どうやって組み合わせたらいいかは、やはりわかりづらいです。「新しい東の京」と読む可能性があります。本当に読むプロセスは、漢字を一つひとつ読んで組み合わせるのか、強い疑問を私は抱いています。

## 漢字能力とは

漢字能力というのは、漢字を一つひとつ読む能力に限ら

ず、日本語で書いてあるテキストのなかに漢字、または漢字+仮名つまり漢字仮名交じりの文字列を文章として読めることです。いくら漢字を知っていても読めなかったら意味はありません。つまり、読むときに、欠かせない漢字能力は分析的な能力、英語でいえば analytic (competence) よりも総合的な能力 (synthetic competence) が必要です。それはコンテキストに置かれている、テキストの文字列、つまり語彙が読めることです。さきほどの例でいうと、「東京」は一つのことば、「国際」「空港」が一つのことばであることを知っていると言え、母語話者はもちろん知っているわけですが、学生は知らないのです。そこが問題です。

たとえば、

東京 = 東 + 京

ヒガシ                      キョウ  
東 **トウ** + 京 ケイ  
アズマ                      ミヤコ

→ **トウ** + **キョウ** = **トウキョウ**

同様に、英語の場合だと

GOOD = G (=g) + OO (=o) + D (=d) → gud (IPA)

**図1** 問題の定義1

それだけではなく……たとえば、

新東京国際空港 = 新+東京+国際+空港

つまり

新東京国際空港



または： 新+{東京[国際(空港)]}

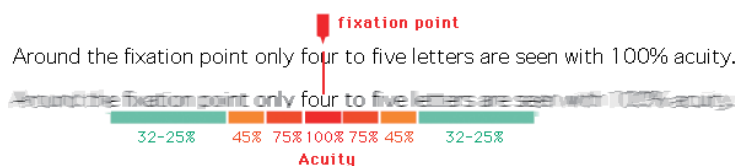
しかし、学生は「新東京国際空港」のまえて、**新東+京** など、つまり「**新しい東**」の京 ?? と読む可能性がある。

**図2** 問題の定義2

漢字教育のなかで、漢字を一つひとつ「知る」というのは、英語でいえば *propaedeutic*、準備研究または予備知識の能力であって、最終的な目標はテキストを読む能力を育てることです。

以上を認めれば、漢字教育と読解教育は非常に強く関係する教育分

読むプロセスの研究によって次の事実が明らかになっている：Reading is an intensive process in which the eye quickly moves to assimilate text. Very little is actually seen accurately. (読みは徹底的なプロセスで、そのプロセスにテキストを理解するのに目が早く動き、実際、正確に(精密に)見られるのは少ない)



読むプロセスは目の *fixations* (定着、絞り込み) と *saccades* (目の早い左右の動き) の繰り返しのによって行われている。人間は、テキストにある一つひとつの語(文字)に視線を集中するのではなく、むしろ語列のいくつかの語に視線を広げて、欠けている情報を文脈によって、自分で補うというプロセスになる可能性が高い。(Reading is performed as a series of eye *fixations* with *saccades* between them. Humans also do not appear to fixate on every word in a text, but instead fixate to some words while apparently filling in the missing information using context.) (サッカド《読書の際などの眼球の瞬間的運動》)。読むときに、目が一線一方に進むのではなく、早い左右の動きをしながら短い絞り込みをする。(During *reading*, eyes do not move continuously along a line of text, but make short rapid movement (*saccades*) intermingled with short stops (*fixations*).)

図3 読むプロセスの実際

野であるいえます。漢字教育は、やっぱり読解教育につながっています。別々ではありません。言い換えれば、漢字教育の最終的な目標は、日本語で書いてあるテキストを読む能力を育てることになります。

私たちの学生が、どうして漢字を習うのかというと、やはり文献を読むためです。日本語で書いてある本を読むためです。いくら漢字を勉強していても、読めなかったら意味はないのです。つまり、読むプロセスは、心理言語学的であるので、そのプロセスのメカニズムを明らかにして、教育にも考慮しないと、実質的に日本語を読む能力を向上させることは難しいといえます。ですから、読む能力を育てるのなら、読むプロセスがどういふものか知らないためです。人間はどうやって文章を読むのか。そういうアプローチは理論だけに基づいていゐるわけではなく、実際のパフォーマンスも視野に入れて、能率を高くすることを目指しています。

では、次は読むプロセスの科学的なアプローチを見てみましょう。

### 読むプロセスの実際

私たちは日本人が日本語を読むとか、イタリア人がイタリア語を読むとか、アメリカ人が英語を読むのは別として、一つの読むプロセスがどう行われているかを科学的に調べたら、日本語教育や漢字教育にも役立つといえます。

読むプロセスの研究によって、次の事実が明らかになっています。こういう研究をやるのはアメリカ人やイギリス人が多いようです。図

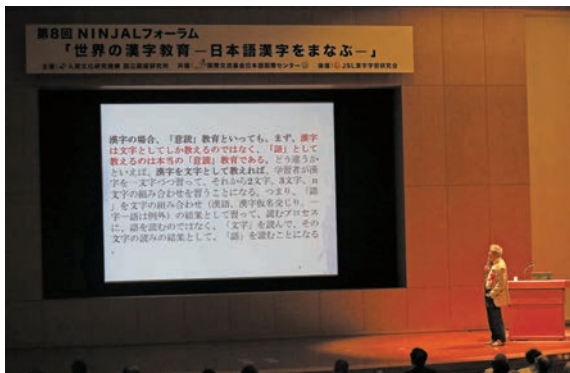
3では英語で書いていますが、日本語に訳すと、「読みは徹底的なプロ

セスで、テキストを理解するのに目が早く動き、実際、正確に見られることは少ない」となります。つまり、**図3**の下は目の視線を示しています。視線は、その文章で前後がちよっとはけていますが、はっきり見えるところは、fourと、その周りだけです。fourは一〇〇パーセントははっきり見えますけれども、onlyやtoは七十五とか四十五パーセントで、このほかはほとんど見ていないのです。読むプロセスが進んでいきます。

読むプロセスは、目のFixation（着目、絞り込み）です。目の速い左右の動きの繰り返し（saccades）によって行われています。視線がいたりきたりしています。人間は、テキストにある一つひとつの語、文字に視線を集中するのではなく、むしろ語列のいくつかの語に視線を広げて、欠けている情報を文脈によって、自分で補うというプロセスになる可能性が高いのです。母語話者だと、あまりよく見えないところは自分で補うことができます。これは読むだけではなく、聞くときに一〇〇パーセントちゃんと聞いているわけではありません。はっきり聞いているところもあれば、漠然的に耳にはいる部分もあります。でも母語話者は、ことを知っているため欠けている情報を補うことができます。

読むときに、目が一線一方向に進むのではなく、早い左右の動きをしながら、短い絞り込みをします。

こういう科学的なプロセスになっています。



## 読解教育

読解教育には二種類あります。一つは、英語でいうSub-lexical readingで、語または形態より短い要素を読みます。その教え方は、一つひとつの文字または短い文字の組を、その発音と結びつけて教えます。それは、「文字を読む」ともいえます。語を読むのではなくて、もっと語の小さくて、短い文字を読みます。これは、私がつけた「音読」という名前です。音を読むことです。

もう一つは、Lexical readingです。つまり、語彙を読むことです。その教え方は、文字を気にせずに、語彙または語彙の組を認識して読ませることです。これは「言語を読む」といえます。さきほどは文字を読む、こちらは言語を読むです。「意読」といってもいいといえます。「表音・表意」の文字の種類と並んで、「音読・意読」という読み方と呼んでもいいといえます。

この二つの読み方は、基本的にローマ字の表音文字に使用しますが、表音文字の仮名と表意文字の漢字がある日本語にも当てはまります。しかしこれは、必ずしも仮名が音読、つまり文字を読む教育、漢字は意読、つまり語彙教育に限るのではなくて、むしろそれぞれの特徴を念頭にに入れて教育プロセスを進めるべきです。当然のことですが、仮名の場合、「音読」教育も「意読」教育もできますが、漢字の場合「音読」教育はできず、「意読」教育しかできま

せん。

漢字の場合、「意読」教育といっても、まず、漢字は文字として教えるのではなく、「語」として教えるのが本当の「意読」教育です。どう違うかといえば、漢字を文字として教えれば、学習者が漢字を一字ずつ習って、それから二文字、三文字、n文字の組合せを習うことになります。つまり、「語」を文字の組合せ（漢語、漢字仮名交じり。一字一語は例外）、の結果として習って、読むプロセスに、「語」を読むのではなく、「文字」を読んで、その文字の読みの結果として、「語」を読むことになります。

これに反して、漢字を「語」として教えれば、学習者が文字を直接に「語」として習って、それから必要に応じて、「語」を分解して、文字を一つずつ認識します。漢字を文字として教え、漢語の前で組み合わせられている漢字を知っていると、ある程度、語の理解ができるというプラスの面があることはいうまでもありません。漢字を「語」として教えれば、それができないのです。習うのに時間がかかります。かかりますけれども、結果的に、読み方がスムーズになります。つまり、文字を習うときに、読んで習うというのが、基本です。もし、読むことが目標であつたら、やはり読んで習うのではないのでしょうか。当たり前ですよね。母語の読み手に近い、早い読み方になるといえます。この場合、文字の教え方と言語の教え方は強く結びつきます。こうすれば、日本人の読み方に近くなります。

実際の文字教育では、一方向的な教え方を選ぶのではなく、やはり両方の教え方をバランスよくとったものが理想的だといえます。文字一つひとつとしての習い方と、語としての習い方です。ただ、大事な

は、文字教育のストラテジーを決める教師が、以上のメリットとデメリットを念頭に入れて、できるかぎり、自然な読み方を目指して教育プロセスを打ち出せばよいといえます。

読むプロセスでは、まず、一字または文字列のいずれの場合でも、基本は「文字認識」です。文字認識ができないと読むことができません。文字認識をしない読み方は存在しません。したがって、スムーズで、自然な読み方を習うのに、スムーズで、自然な文字認識を欠かすことができません。

しかし、以上科学的なアプローチの読み方というのは、

① 読むプロセスは、目の fixation（定着、絞り込み）と、saccades（目の早い左右の動き）の繰り返しによって行われています。

② その結果として、「読みは徹底的なプロセスで、そのプロセスにテキストを理解することに目が早く動き、実際、正確に（精密に）見ることは少ないのです。」というのは、普通、慢性的な文字が目にはいる。上手な文字認識は、早くて、間違いなく行うべきです。「実際、正確に（精密に）見られるのが少ない」というのは、認識の際、脳のなかで行われている文字処理は、「漠然とした形」によって認識するほかないということです。「漠然とした形」というのは、文字列のだいたい「概観」による認識ということです。概観を見て、処理して、自分の文字言語の貯蔵（repertory）に照らし合わせて認識し、それから理解するというプロセスの繰り返しになります。

漢字を知っているか知らないかという意味は、ただ、漢字貯蔵にはいつているか、はいついていないかだけではなくて、もちろんはいついて

いなければ読むプロセス自体でもできませんが、はいっていても、「概観」で早く、正確な取りだしができるかどうかという問題がかかわってきます。私の教え子が日本語を読むとき、すごくゆっくり時間をかけて読みます。ああこの字とか、この字だ、この二つの字の組合せはこのことばだとか。それはやはり普通の読み方ではありません。読み方に慣れていないのです。

### 非母語話者の学習者にとって漢字列を読む際の問題点

その「概観」で、早くて、正確に貯蔵から取りだしができることは大事なポイントです。本当は、これだけで話は長くなるのですが、その概観で速く、正確に貯蔵から取り出しができるというタスクは、非漢

字圏、非母語話者の大人学習者にとっては、つまり、外国人の大学レベルの学習者にとっては、特に漢字列を読むときになじみづらい点がいくつかあります。ここでは三点だけ取り上げることになります。

一つは、類義の漢字です。はっきり見ないので、類義の漢字が間違しやすいです。もう一つ、漢字の非局在化 (delocalization) です。そこまでの話は時間の関係で残念ながら今日はできません。もう一つは、アルファベットの線上的な文字に対して、漢字は二次元的な文字を読むことです。このポイントは私が別の論文でも書いたことがあります。本当は、最初の二つのポイントについて話して、練習問題もお見せしたかったのですが、もう時間がきてしまったようです。申し訳ありませんが、ここで終了します。ありがとうございました。





今日のお話、すごく盛りだくさんでしたが、皆さんのくらい覚えておられるでしょうか。最初の先生がなにをお話しなさったか覚えていてほしいかな。

私は普段、日本語教育の漢字をテーマに日々研究や指導をしていますので、とっても身近な問題ですが、はじめて聞く方にとっては情報が多くて混乱された方もいらっしゃるかもしれません。私のほうからは、先生方のお話を振り返って、私の印象に残ったことを一言ずつコメントさせていただこうと思います。

今回登壇した先生方の話は、テーマでもある日本語漢字をまなぶという観点からのお話でした。最初の開会挨拶で、国語研究所の影山所長は、外国人の日本語学習者がどのように漢字をまなぶかに興味があるということをお話しされました。その点について、私の覚えていてる範囲で少し振り返りたいと思います。

基調講演の加納先生のバーゲンの話、覚えていらっしゃるでしょうか。学習者の心理面を考えて、「漢字の辞書には五万字あるけれども、二千字勉強すれば日本語をうまくなったといえる。しかも、五百字勉強すれば新聞の漢字の八〇パーセントがカバーできるらしいよ。だから、八〇パーセントでいいでしょう。まず、五百字を覚えませんか」というように、バーゲン方式で数字を下げていくという話でした。ここで気を付けなければいけないのは、オークション形式ではないということです。私たちは、ちよつと親切な先生を気取って、少なめに五十字とか百字とか言っておき、学習者の気づかないうちに少しずつ増やしていくというのは、ちよつと詐欺商法に近いかもしれません。バーゲン方式はとてもインパクトがあつて、覚えておくといふキーワードだと思いました。

台湾の林先生からは、漢字が母語表記であることから漢字の授業が用意されていないという話がありました。私は、「やっぱりね」と思ったのですが、それは必ずしも学ばなくてもよいということではなかったと思います。字体とか字形の違いに気づかない学習者がいることもわかりましたし、漢字が同じでも意味の幅が違うということもわ

かりました。例にでていたのは、気温の高さを表す「暑い」と、物の温度の高さを表す「熱い」です。音は同じですが、このような漢字の違いがだされていたと思います。

漢字圏の学習者にとっては、日本語は漢字を使うけれど、それは外国語だという認識をもって、漢字の字形や意味を確認してもらう必要がある、また、先生もそういう認識をもっている必要があるということを感じました。

フィリピンのフランチェスカ先生は、フィリピンの事情を最初にお話しされ、日本語能力が高くなれば、日本語を使った仕事に就けるという話をされました。そして、高くなればという高さの目安として、漢字が千字とか二千字という数字がでていました。そのレベルに達することがなかなか難しいということ、漢字学習への意欲、モチベーションが下がることで日本語学習をやめてしまう人もいるという報告があったのは少し残念でした。でも、学習者と教師のアンケートはともおもしろいと思いました。教師は、フィリピン人学習者は漢字学習に向いていないと悲観的に捉えていることがわかりましたが、学習者は前向きで、漢字は役に立つものだと思えていることがわかりました。そして、教師と学習者が使っている学習方法に違いがあると示されていたことが、とてもおもしろいなと思いました。

インドのプラシャント先生の、世界の文字や表記の話はとても興味深かったと思います。皆さん、どのくらいの文字をご存じでしたでしょうか。いまNHKの語学講座なんかでもいろいろな文字の紹介がされていますので、見たことはあるかもしれません。ちょっとことばは悪いのですが、グニャグニャとした文字があるのを考えると、「あつ、まだ漢字でよかったなあ」と思いました。

また、日本人も読めない漢字があるのだから、みんなも安心して、というご指摘もありました。先生という立場で前に立ったり、または親の立場で子どもの前に立っていたりしますと、できないことを隠すこともあるかもしれません。でも、できない部分がある、忘れた部分があるというのは、普通のことなのだと思います。私は漢字を覚えるのが苦手だったのですが、苦手なことが高じていま専門になっています。なので、学習者と一緒に学んでいくことも大切だろうと思いますし、私も大変苦労したんだ、一緒に勉強しよう、素直にいうことも大事なのかなあと思いました。

それから、キルギスのガリーナ先生のご報告では、まずスライドの投影だけでなく音楽がでてきたことにビックリされた方もいたかもしれません。源氏物語というのにも興味深いなあと思いました。今回は時間の問題もあって省略もありましたけれど、こんなにあるのかというほどの漢字学習や指導の問題点が列挙されていたかなと思います。また、ガリーナさん自身の学習者という視点から漢字の学び方や教え方というのを考えて教材を作成されたことも興味深いと思いました。

日本で教育を受けてきた人にとっては、どうしてそこまで分解して、どうしてそんな教材が必要なのだろうかと思議に思った方がいらしたかもしれませんが、レベルも高いところまできた人の経験は、やっぱり示唆に富んでいると思います。

また、列挙されていた問題点は、すべてを一つの教材で解決できるわけではありませんが、それを和らげる、一つ二つなくすることはできるかもしれません。教師としては、そういった選択肢をもつのがとても大事だろうなと思いました。

最後は、イタリアのトリニ先生です。時間がなくなってしまったのはとても残念でしたけれど、まずは単漢字、つまり、漢字一文字一文字をどうやって学ぶのかという視点から、もう少し広く捉えようということが最初の提起だったと思います。漢字が複数並べられているとき、どのように理解していくのかという点です。ここにいらっしゃる方は、皆さんもう大人だと思えますので、もう何年も前、何十年も前の学習経験について覚えている人はたぶん少ないかなと思いますが、昔どうやって勉強したかを思いだし、または自分の子どもたちがどうやって勉強しているのかを考えながら、漢字の勉強の仕方を思い起こすといいかないかなと思いました。

また、読解というキーワードから、どのように読んでいくのかというプロセスについてもお話をいただきました。これは最初の加納先生の講演にもあった用法につながっているのかなあと思います。

それぞれの先生方のお話は、別々の視点から用意されたと思いますけれど、漢字の形、読み、意味、用法それぞれにおもしろさと難しさがあるということがわかりました。

そして、このような報告を聞きながら、いま述べたような感想をもったのですが、加納先生の講演の最後のほう

で、「漢字学習の道は、はてしなく続きます」と書いたスライドがありました。はてしなく続きますし、たぶん日本で教育を受けて立派に成人した皆さんも、きつとまだ続いているのではないのでしょうか。学習者がその道をどのように進んできたのか、また、遅々として進まない日々を過ごしたのか、喧嘩したり、または走ったりしたのか、走って駆け抜けてきたりしたのか、その道のりの過ごし方について、私は興味をもちました。

私のコメントは以上で、このあとはディスカッションになります。漢字学習にはさまざまな困難点があることがわかりましたが、ディスカッションでは、いま報告してくださった先生方が、漢字を学習する人として、漢字学習を続けてこられた理由、または漢字学習のどんなところが楽しかったのかについて聞きたいなと思います。

せっかくの休憩時間ですが、報告者の皆さんには、休憩の間、心の準備をしていただければと思います。私からは以上です。ありがとうございました。

# デイスカッション

パネリスト：加納千恵子、林立萍、フランチェスカ・ヴェントウーラ、ブラシャント・パルデシ  
ガリーナ・ヴォロビヨワ、アルド・トリニー、濱川 祐紀代

司会：高田 智和

**高田** 司会は、国立国語研究所の高田が

務めます。私も入れて八名と、これまでの  
NINJALフォーラムのなかでは一番多い  
登壇者だと思います。デイスカッションをは  
じめる前に、さきほどのトリニー先生のご報  
告で時間がなくなっていましたので、五  
分ほどで補っていただけだと思います。

**トリニー** 全部話せなかったのは残念ですけ  
れど、そのあとは私が作った練習問題を見せ  
たかったのです。さきほど申し上げたよう  
に、形の似た類似の漢字は文字をはっきり見  
ないので間違えやすいです。ですから、準備  
教育としては、やっぱり練習させればよい。  
見ているたくさんの漢字のなかで一つを選ぶ  
ことは、目を習わせることですよね。慣れて  
いないから、できるだけ早く、正確に、一つ  
の漢字を見つけたすという練習問題です。な

んというのかなあ、スムーズな読み方のため  
に必ずしなければならぬことだと思いま  
す。

もう一つできなかった話は、漢字の非局在  
化 (delocalization) です。私がそういう名前  
をつけたのです。どういう問題かというと、  
自分自身の経験で考えたことですが、たとえ  
ば、私が東京に長く住んでいて、いつも地下  
鉄に乗って、いつも同じ駅に降りて名前を見  
ていました。たとえば、吾妻橋。毎日毎日毎  
日見ていました。あるとき、最初の漢字の  
「吾」が、違う漢語のなかでわからなかった。  
毎日見ていたのに。何回も何回も見たことが  
あるのですが、どうしてもわからない。どう  
しても思い出せない。つまり、目が慣れてな  
い語彙のなかに違う組合せを見ると、ときど  
きわからないときもあります。それは非局在  
の問題ですよ。つまり、私が駅の名前を見る

とき、漢字を一つひとつ認識して、組み合わ  
せて読むのでなくて、一つのことばとして読  
んでいたからです。漢字は見ないで、ああ、  
この組合せは吾妻橋だ、ということですよ。  
そうしたら、最初の「吾」を別の漢語で見ると  
きにわからない。それも語彙として読むから  
です。私たちが漢字を読むとき語彙として読  
むのです。そういうことから、たくさん  
の練習問題を作ったわけです。目が語彙とし  
てだけじゃあなくて、漢字一つひとつに絞っ  
て認識するという練習問題です。今度もし時  
間がもつとあれば全部やります。

**高田** ありがとうございます。それでは  
デイスカッションをはじめます。

さきほど、濱川さんからのコメントで、  
デイスカッションの話題が示されました。漢  
字学習にはさまざまな困難があります。特



に、日本語非母語話者に特有の困難があると、基調講演からはじまって皆様のご報告にありました。困難があるにもかかわらず、報告者の皆様は学習者として漢字学習を続け、日本語で講演をし、発表資料を日本語で書きこなす上級レベルに達しました。これまで漢字学習を続けることができた理由を、お一方ずつお話しただけだと思います。

### ヴォロビヨフ

私の専攻は数学ですが、日本文化に興味を持って四十六歳で趣味として日本語を勉強しはじめました。でも、どんな言語かまったくわかりませんでした。最初は平仮名を覚えていただけで、以前使っていたアルファベットとキリル文字と大きく異なる、とても覚えにくい文字だと思いました。苦労して、学習の困難を乗り越えて、片仮名も習いはじめました。これもとても難しかったです。そして、漢字を勉強しはじめたとき、非常に難しくなっていて、もう日本語の勉強をやめるしかないと思いました。漢字学習の最初の段階で一番大きい問題になったのは、いくら頑張っても覚えた漢字は、次の日にはもう覚えていないと感じたことでした。その理由

は、同時に大きな知識、つまり漢字の形、読み方、語例、筆順などを覚えなければならなかったからです。困難の例として、ある出来事をご紹介します。クラスメイトの一人は書き取りで、どの「き」でも、木曜日の「木」、どの「か」でも、火曜日の「火」を書きました。それは表音文字のアルファベットと表意文字の漢字の基本的な違いが非漢字系学習者にとってわかりにくいという状況の例でした。漢字学習をはじめたばかりの非漢字系の私たちにとって漢字は別世界のようでした。漢字で書かれた文章を見たときまるで宇宙人とのコミュニケーションの試みをしているような感想でした。

漢字学習を登山にたとえることができます。実は、私は五十歳のとき富士山に登りました。苦しかったですけれど目の前の頂上を見ながら、我慢して頑張っていました。結局頂上まで登ると目の前にきれいな世界が広がりました。富士山から日出を見て私はとても幸せでした。漢字学習も富士山への登山と同じように苦しくても、勉強すればするほど漢字を深く理解して、漢字の世界は目の前にきれいに広がります。いつの間にか私は漢字



学習の楽しさ、面白さを感じました。漢字を使ってさまざまな言葉を作ることができることは私にとって不思議でした。また、それぞれの漢字には読み方がいくつかあって、驚いていました。たとえば、漢字「日」がはいっている語例には「日曜日」、「休日」など、その漢字の読み方が違う単語がありました。私の日本語の萩原幸子先生は全力をつくして、教えてくださったから、私はそれに応じて我慢して日本語学習をやめないで一生懸命頑張っていました。最後まで闘って、日本語能力試験の一級に合格しました。そして日本語教師になって、私の学習者の負担を軽くして、漢字学習を楽しくするために漢字教材を作成しました。そして漢字学習の効率化を目指して研究していて、その成果を博士論文にまとめて日本で博士号を取得することができました。漢字学習の困難を乗り越えた人は強くなると信じています。

**パルデシ** 私には、漢字はインド料理で使うスパイスと同じように見えました。組合せでいろいろなものができる。加減が違くと味が違う。無限大に組合せができて、無限大にい



ガリーナ・ヴォロビヨワ

ろいようなものが調理できる。サスペンスドラマと同じように複数の漢字を組合わせて、それはどういう意味なんだろうかと想像していました。私はインドにいたとき英語がとても

苦手でした。なにが苦手かというと、綴りを覚えることです。フランス語は綴りと実際の発音がまったく違っています。そのとき、ルソーについて勉強したので、ルソーの綴りR、o、u、s、s、e、a、uを十回以上描いて覚えました。日本語の場合、飛行機という単語を学んだとき、ほんとうに鳥肌が立ちました。飛んでいく機械。なんというわかりやすい言葉かと思いました。表音文字で理解できない単語は、表意文字で理解できること

が多々あります。

もっと面白いのは、読まなくてもわかるということです。これは最大の武器です。学生の「学」という字を学んで、そのあと「見る」という字を学んで、そのあと「見学」という組合せができる。「見学」という言葉は、私は辞書を調べないで理解できたんです。これは漢字のすばらしい力と思いました。それから毎日、サスペンスドラマを見るように漢字の組合せをやって、自分の考えている意味があつてるかどうかがチャレンジし続けました。それがいまでも続いています。

**ヴェントウーラ** 私が漢字の勉強を続けてきたのは、日本語を勉強しはじめた頃から漢字が絵みたいで、すごくきれいだなあと感じていたからです。その結果、漢字を勉強する意欲が高くなりましたが、友だちにもどうして同じような楽しみがなかったかを不思議に思っていました。漢字を勉強すればするほどいろいろなことが分かります。プラシヤント先生がおっしゃったように、漢字を勉強するといろいろな情報が読み取れるから漢字は面白くてすごく役に立つと思いますので、これ

からも漢字の勉強を続けたいなあと思つています。

単語カードを作つて、勉強していたとき、おばさんが私のカードを見て、「あのー、それはお祈りですか」とかいわれたことがあります。ほんとうに漢字の勉強が好きだったら、そして漢字の価値がわかっていたら、学習者は変に思われても、さまざまなストラテジーを使つて漢字を習うために努力し続けると思います。

**林** 漢字圏の国ですので漢字をまなばなくてもいいというような印象ですが、じつは、日本語の漢字は私にとってはやっぱり外国語です。漢字には一つの文字のなかにたくさんさんの情報がはいっているんで、見るだけで楽しい。また、楽しく勉強できるもう一つの主な理由は、文化に接触することができることです。基調講演で加納先生が、漢字は文化だといわれましたように、漢字のなかにいろいろな文化がはいっているんです。それを勉強するたびに、日本の文化だけではなく中国の文化も見られるということです。

たとえば、「走」という漢字、なぜ走ると

いう意味になるのか。現在われわれの使っている中国語では、歩くという意味になります。同じ漢字ですが違う意味です。昔の「走」という漢字でしたら「はしる」という意味でしたが、どんどん変わっていきますので、この漢字を通して、現代のわれわれの知っているもの、接触しているものと、また日本の考え方と昔の中国の考え方を漢字を通して知ることができるので非常に楽しい。私にとっては。

もう一つ、日本人は漢字を勉強して、新たに自分の文字も作りだした。和製漢字といったものですね。たとえば、「峠」という漢字。その形からまた新しい漢字が作られてきまし



林立萍

た。これを見て、私たちがどう読んだらいいのかわからない。そこからまた日本人の発想が見えるので、非常に楽しいということ。楽しくやってこられるわけです。

**トリーニ** 漢字学習が続けられた理由は、私の場合だと、まず試験があったからです。それは半分冗談、半分まじめです。大昔ですが、留学生として学位をとるためには漢字は欠かせない能力です。それも大事なことです。それは強い動機にもなっています。私たちの学生もそうじゃあないかなと思います。

漢字を続けた理由というより、どうして日本語をはじめたかという問題です。日本語をはじめたら必ず漢字にぶつかるから、しょうがないから習う。それとも好きだから習う。とにかく習うしかないんです。そうしたら、どうして日本語を選んだかという、やっぱり文化ですね。日本文化をもっと知りたい。西洋人の若い男の子としては、魅力的な文化、自分のまったく違う文化と思えば、やっぱり日本の文化ですよ。西洋人としては、日本文化は魅力的です。それで日本語をはじめたんです。日本語は、日本文化を深

く理解できるように一つの手段としてまなんだわけですよ。

あと二つの理由があるんです。一つは、漢字を覚えれば本が読める。これはかなり大きい動機ですよ。本が読めないと、実際に日本の文化に触れることはできないんです。翻訳ばかり読んでいては、なかにはいれない。ほんとうになかにはいろいろとすれば、やっぱり日本人が書きたいいろいろな時代の、昔からいままでの自分の文化、自分の社会について書いた本を読まないでだめです。

もう一つは、漢字が不思議な文字で、プラシヤントさんもそうおっしゃったんですけれど、その魅力もあります。ローマ字育ちの私としては、ローマ字は非常に理想的ですよ。すごく簡単ですぐ習えるんです。とっても合理的です。特にイタリア語はそうです。英語は違って、ちよつと綴りがおかしいというか……、ですね。あまり合理的じゃあないけれど、イタリア語は文字をそのまま読めばいいわけですよ。それはすごいです。だけど、魅力があんまりない。魅力といたら、ちよつとミステリーがあつて、ちよつと難しく、奥が深く、すぐわからない。一生懸命勉強



アルド・トリニーニ

しないと理解できないというのは、魅力の一つですね。その不思議な文字に魅力を感じて習いはじめたわけです。

文字学習はどこが楽しいかということですね。私は山男です。よく山登りするんです。私は高い山に登りたくなるんです。低い山はどうでもよく興味はない。高い山ほど登りたい。チャレンジですよ。漢字を習うのはチャレンジです。チャレンジが好きな人は、やっぱり漢字を習うのは楽しいです。毎日一つひとつ習って、高い山を登るような感じがします。頂上にたどり着くかどうかかわらないんですけれど、諸橋さんの『大漢和辞典』には五万字あるので、そこまで習ったら人間の頭

が狂っちゃうと思うのですけれど。それでなくとも、やっぱり登るとき、だんだん上がっていった空気がおいしくなるんですよ。漢字もたくさん習ったら漢字の空気がおいしくなるということです。

### 濱川

私は日本人ですが暗記がほんとうに苦手で、漢字を覚えろとか、社会の年号を覚えろといったテストのときには、赤点をとってきました。なので、ここにいらっしゃる先生方のような優秀な学習者とはちよつと違います。私は覚えるテストに関してはかなりの努力を積み上げてきたと思います。それでも失敗をしてきたんです。そういう私だから見える景色としては、初級だけでつらそうにしている学習者の顔が目によく浮かんできます。私はそういう学習者に、この壇上の先生方のようなきれいな景色を、またはワクワクした感じをどうやって見せられるんだろかということ、ほんとうに知りたいところです。ここの壇上で、この短い時間では伺い知ること、ほんの少ししかできないのかなあと思います。いま先生方が話してくださったことをもう少し咀嚼して、教師の知見とし



て身につけて自分の授業に活かしていきたいなあと思いました。

一つ、それぞれの先生方が違う方法を使っ  
てここまで乗り越えてきたということがいえ  
るのではないかと思います。文字体系とい  
うような広い視点から見ている方もいらっし  
やれば、一つひとつ単語帳を作って、自分な  
りのオリジナルの方法で学習を継続してきた方  
もいらっしやって、そこには大きな差がある  
んじゃないかと思います。教師としては、い  
ろいろな方法があるということを知って選択  
肢の幅を広げて、たくさんいる学習者に提供  
して選んでもらうことができれば、少し幸せ  
な世界が広がるかなあと思いました。

共通して話していたことの一つは、学習を  
はじめた動機と漢字学習を継続してきた理由  
は、違ったんじゃないかなと私は受け取りま  
した。漢字を学ぶ先になにかあるのか、漢字  
を学んで、その漢字をどう使いたいかとい  
うところに向かって、学習が続いてきた。あ  
きらめないできたということがあるのかなあ  
と感じました。以上です。

**加納** 私は漢字学習を続けてきたというよ



濱川 祐紀代

り、漢字を教えることを続けてきて、濱川先  
生がおっしゃっていたように、どうやって教  
えたいんだろうか、どうしたら苦しい顔  
ばっかりじゃあなくて学習者の楽しい顔が見  
られるかをずっと考えてきたわけです。い  
ま、壇上にいる先生方のお話を伺っていて、  
私が見てきた学生たちのなかでも理系の分析  
的な理論派の人たちは、やっぱり、文字の構  
造とか、どのように文字体系としてはたらい  
ているかという機能にもすごく興味をもつ  
らしいと思いました。なにも私たちが  
いわなくても、自分で興味をもってどんどん  
進めてくれる人が多いんですね。

それから、ヴェントウーラ先生が、はじめ

て漢字を見たときにすごく美しいと思ったと  
おっしゃいましたが、そういうアートの感覚  
をもっている学生さんもわりと文字が好き  
で、日本語は残念ながらあまりうまくなら  
ない人もいます。いろいろな色をつけて絵にし  
たりするののすごく好きだという方もいま  
す。漢字を楽しんでくださっている。それが  
ことばの勉強にもつながっていくはずらし  
いと思うんです。そういうご自分のなかに魅  
力的なものとか、不可思議なものをキャッチ  
する、トリート先生がおっしゃるようなチャ  
レンジしたいというような心をもっている方  
は、教師から見るとすごく助かるというか、  
なにもなくてもどんどん伸びていくってくだ  
さるのですけれど、そうではない大半の人た  
ちは、仕方がないからやっているとか、単位  
がほしいからとっているというか、卒業でき  
ないといけないから、なにか一言言葉をやら  
なければいけないって、ちよつと間違つて日本  
語をとっちゃったかも、というような人たち  
もいます。じつはそれは間違いともいえなく  
て、どんな言語をとったとしても困難もある  
し、面白いこともあるので、少なくとも日本



教えている教師が日本人だと、自分たちは気がつくと言めるようになっていたので、どうやったらいいのかというノウハウについては聞かれてもわからない。「とにかく、たくさん書けばいいんじゃない?」というような国語の方式しか知らない先生が多いので、今日伺ったような非母語話者の学習者として成功して、いまその言語を使って実際にこなすをしていらつしやる方の体験談はものすごく貴重なんです。ですから、教室で教授法、学習法として紹介するのもいいんですけれど、ネットの時代なので、こういう情報を身近で聞いたり、読んだりできるようなサイトがあったらいいなあと、今の話を聞いていてすごく思いました。学習者のなかにも、いまのお話が日本語だったのでもちっと理解できないようなレベルの人でも、母語でそういった話を聞くとすごく共感できるころはあるんじゃないかと思いました。そういう意味では、こういう情報も学習を支援するために



それからトリ―二先生がおっしゃったことです。ごく大事だと思ったのは、試験があるから勉強するということです。それは多くの学習者にとって当たり前のことなんです。先生方が非常に苦勞して作ってくださっている教材とか教育法、勉強の仕方がどんなに新しく啓蒙的であつても、評価の方法がかわらないと、実際のところ学習者はただそれを聞いて、ああすごいなあと思つても、実際にやるのは丸暗記だったり、明日テストだから一生懸命覚えて、テストが終わつたら忘れるようになりがちなんです。それで、勉強の仕方とか教材の情報も大事ですが、テストの在り方

**高田** さまざまな方法があつて、それぞれの困難を乗り越えるためにいろいろな方法を使つてきたということが紹介されました。

それでは、もう一つお聞きしたいと思います。今日は、「日本語漢字をまなぶ」ということですが、皆様が考える理想的な漢字学習についてお聞きます。留学して日本国内で日本語の漢字をまなぶ場合もあるでしょうし、それぞれ自国で漢字をまなぶ場合もあります。また、教室の中から教室の外かなどいろいろな場面があります。理想的な漢字学習について、お一人ずつお考えをお聞かせください。

**トリーニ** 理想的な漢字学習とは、私の報告のなかでも触れましたが、やはり文字プラス

語彙としての漢字教育が一番理想的だと思います。漢字だけ、文字だけとして漢字を習うのではなくて、語彙としても習うことがとても大事なことです。

もう一つ、普通、漢字を外国人に教えるのはだいたい日本人の講師ですよ。イタリア人で漢字を教える人はあんまりいない。これに私はちょっと疑問をもっているんです。なぜかという、ある程度、外国人の目で漢字を理解ができないと、教え方が徹底的にできないですよ。たとえばですね、日本人は漢字を、当たり前のこととして教えるんですよ。私も昔、イタリア語をちょっと教えたことがあるんですけど、なにも勉強しないでも、母語話者ですからなにも問題ない、簡単にできると思っていたんです。でも、質問されても答えられない、答えができないんですよ。どうしてこうなっているかわからないですよ。当たり前としての文字を知るの、なにか物足りない感じがします。だから、私たちが外国人としてどうやって文字を、漢字を理解するか、どうやって見るかがとても重要だと思います。ですから、漢字を教えるとき、日本人と外国人が一緒に教えるのが理想的で

す。

### ヴォロビヨフ

私は今まで理想的な漢字学習を三つの立場から考えました。最初は日本語学習者として、それから日本語教師として、そのあと、漢字教育の研究者として効率的な学習法・指導法を考えました。その三つの視点の間に大きな差があるといえます。つまり、学習者は漢字の学習法に対する知識が浅くて、教師の指導に依存しています。また、現場の教師も漢字の指導法を学ぶ可能性が限られて、主に丸暗記に頼って漢字を教えています。それに対して研究者は視野を広げる可能性があって、先行研究を基盤にして学習法



高田智和

の改善、効率化に対して新しいアイデアを生み出します。効率的な漢字学習法のなかに連想記憶法、唱えことば、漢字の空書、漢字カード、マインドマップ、概念の地図、学習用のコンピュータソフトなどがあります。さらにオーストラリアのバーバラ・バーク先生が五十以上の漢字学習ストラテジーを記述しました。漢字教育研究の成果についてさまざまな本や雑誌や論文で読むことができますけれども、現場で漢字を教えている教師はその重要な研究についてあまり知らないです。それは、その事情をとっても残念に思っています。できるかぎり、理想的な漢字学習を考慮に入れて、漢字の指導の手引きや教科書を作成するようにしています。

理想的な漢字学習というのは、まず楽しい学習だと思います。漢字は難しい、怖いという学習者の心理的障壁を乗り越えないと学習者にとって効率的な学習をするのは難しくなっています。目標達成感がないです。漢字の楽しさ、重要性を説明すると、学習者は喜んで力を入れて学べるようになります。現在さまざまな学習者のタイプがあって、それぞれのタイプにふさわしい教材作成が必要です。あ

る人は日本に留学して漢字学習をしています  
が、ある人は自国で趣味として漢字を勉強し  
ています。それぞれの考え方、ニーズを考慮  
に入れて教材を作るのが必要です。

私の考えでは、漢字学習の大きい問題にな  
るのは漢字の長期記憶です。丸暗記の方法が  
広く使用されていますけれど、ほかにもさま  
ざまな学習法があります。漢字を機械的に覚  
えるより、漢字の構成を理解して効率的な学  
習ストラテジーを利用して意図的に覚えるこ  
とが望ましいです。理想的な漢字学習法は、  
将来開発されると信じていますが、それに貢  
献するために現在漢字学習の改善、効率化を  
目指して、私たち、日本語教師と日本語研究  
者が努力しなければならないと思います。

**パルデシ** 私は日本語教師を四半世紀前に短  
く一年半だけやっていましたが、漢字の理想  
的な教え方は知りません。ただし、理想的な  
学習法は三十年やっていましたのでわかってい  
ます。それはなにかというと、「石の上にも  
三年」、努力することです。もう一つは、「桃  
栗三年、柿八年」、時間をかけてやることで  
す。その心構えがないと漢字は学べない。い



ブラシャント・パルデシ

ろいろな外国語を学びましたけれど、挫折す  
る人はだいたい六か月で挫折します。長く続  
く人は何年でもやります。ですので、興味の  
ある人がモチベーションを自分で持ち続けて  
学習するのが一番いいかなあと、私はさまざ  
まな言語を学んで思いました。たくさん練習  
することと、ワインは長く置いておけば味が  
でるのと同じように、長い時間かけてやるこ  
とが大事だと思っています。

**ヴェントウーラ** 周りの声を聞くと、皆さん  
は漢字は難しいとか、学習者のモチベーショ  
ンが低いとかいろいろ聞いているんですが、  
自分の頭の中での理想的な学習と理想の授業

は、学習者が漢字の面白さと価値をわからせ  
る、気づかせるような学習です。さきほど、  
フィリピンの話をしました。学習者のニー  
ズにあわない授業をすると、学習者の動機が  
落ちてしまうので、学習者のニーズとレベル  
にあっている教育が一番よいと思います。

最後に、漢字の数の話があったので、たぶ  
ん二千以上の漢字をすべて教室の中で教える  
機関が少ないと思われるので、学習者が自立  
的に漢字を勉強できる力を備えるような学習  
もよいと思います。

**林** 台湾は漢字を使っていますので、台湾で  
日本語を勉強するときに漢字を教えないのが  
普通です。教えようとしても時間の無駄だと  
いわれています。教室で日本語を教える時間  
があんまりないので、理想的な漢字学習と  
いったら、やっぱり学生さんの自立学習にな  
ると思います。自立学習になると、一番やつ  
てほしいというか、考えてほしいのは、相違  
点から着目することです。そうすると、効率  
的に日本語の漢字をさらに自由に使えるよう  
になる。またそこから、日本の文化を楽しむ  
ことができるというような考え方もつく

れるようになったら理想的な漢字学習になるのではないかと考えています。

**濱川** 理想的な漢字学習と問われましても、まだ私、漢字学習に成功したと思っていませんので、コメントしづらいところなんですけれど、さきほどからでていますように、漢字学習そのものには努力は欠かせないと思います。努力は必要だと思います。ただ、漢字のクラスがないという台湾の例や、初級しか教えないといった例はたくさん聞きます。なので、漢字は一人でやりなさいというのが一つの流れであるかなと思いますけれど、私自身はこれは教師の役割を放棄しているのではないかと思っています。そうはいっても、放棄ではなくて、どう教えたらいいか、なにを教えたらいいかというところが検討されていないから、まだ授業として成り立っていないという可能性もあるかもしれません。

そういった意味で今後のことを考えますと、さまざまな専門をもった人が日本語を学んでいますので、たとえば、数学という話もありましたけれども、数学を専門としているような人がどんな日本語のことばが必要なの

かといった研究も必要でしょうし、介護看護に関係する人たちのための語のリストアップ、教え方も必要になるかなと思います。また、生活者として暮らしている外国人の方々のためのことばも必要になるかと思っています。そういった研究を待ちたいなあと思いますし、もしそれが実現しているのであれば、積極的に広めていきたいなあと思いました。

理想的な漢字学習を無理矢理考えてみますと、専門分野がなにか、その漢字を学んでなにがしたいのか、その漢字の知識をどこに活かしたいのかという視点が大切で、そのことを学習者自身にも考えてもらうこと、そして、教師からも、それを問うていく、質問



フランチェスカ・ヴェントウーラ

していくということも大事だろうと思いました。

**加納** 今日私は私自身いろいろな漢字学習に成功された方のお話を聞くことができてとても勉強になりました。何人もの先生がおっしゃったように、学習者も一人一人、なんのために日本語を勉強するのかという目的も違いますし、それから好き嫌いもあるので、どんなことをするのは好きか、どんなことは苦手かというのとは違っているので、理想的なものが一つ、これというのはいえないと思います。ですから、いろいろな引き出しを教師は用意しなければいけないというのは、濱川先生のおっしゃったとおりだと思います。私たちが食事をするとき、好きなものから先に食べる人と、好きなものは最後にとっておく人がいるのと同じように、ことばを勉強するとき、その学習者の母語とか母文化によって、苦手だと思うところを克服する形で勉強を進めるチャレンジが好きな人と、やっぱり楽しいこと、面白いことからはいって、徐々に、最後はなにかできるようになってよかったとなる道筋をたどる人とか、いろいろあると思います。



した。特に漢字のどこに魅力を感じているかが違うことがわかっただけでも、参考になります。教える側も学習者を注意深く見て、それから、教える側に日本人ではなく、学習者と同じ立場に立つ先生がふえれば、もう少し引き出しの数もふえると思いますし、アプローチもふえていくかと思います。学習者の

方はやっぱり、難しいからこそチャレンジしたいという人はそのような意気込みで、石の上には三年座っていたきたいと思いますが、そうではなくて楽しいからやってみたい、面白いからはじめてみたいと思う人には、その段階段階にあった、なにか楽しさを見せてあげられるような学習方法も必要かなと思います

した。今日はほんとうにありがとうございました。

**高田** 講師の先生方、どうもありがとうございました。以上でディスカッションを終わります。



# 閉会挨拶

西原 鈴子（国際交流基金日本語国際センター所長）



今日は、こんなにたくさんの方々が、こんなに長時間、この演台の部分に目が釘付けになっていました。長い時間、ほんとうに大変なことだと思いながら見ておりました。漢字を含む文字表記をもった日本語を学ぶことのエキスパートの方々に各国からきていただいて、その方法およびその姿を見せてくださったということだけでも、私たちにとても非常に大きな意味があったといえます。

楽器を学ぶとか、なんのお稽古ごとをするのでも同じだと思うのですが、耐えなければならない基礎練習を経て、やっとエキスパートになっていくということが、いろいろなことばで語られたと思うんですね。でも、共通して皆さんがおっしゃったのは、「楽しい」という、すごいキーワードです。漢字が楽しいということは、私たちが心に銘じて受け止めなければならないことだと思います。基礎的な積み重ねのなかで、必要悪なのであれば、善にしておもうというところが、成功者と失敗者という中途退学者の差になっていくのかなと思います。聞いておりました。

この場にいらっしゃった多くの方々は、日本の公教育のなかで母語の一部として表記を習って成長したと思うのです。日本の国語教育は、一貫して、いまもそうだと思うのですが、手がおぼえる、身体がおぼえるというところで、六年間かけて千字、九年間かけて合計二千字プラスを身体に覚えさせるという形で、毎日、何百字書くのでしょうか。ときどき、「あんたは悪い子だから、罰ゲームとして漢字書いてなさい」みたいなにして、罰ゲームとして教育されて育ってきた方もいるんじゃないかと思うんです。たぶん、多くの方々は九年間かけて二千字学んだわけですが、日本語を外国語として学習する方々は、そんなことをしていたらいつまでも終わらないので、これを五倍の速度に凝縮するくらいにギュッと詰め込んで学ばれ、チャレンジして成功なさることになるわけですね。今日は大変有益なことを聞かせていただきましたし、それからこの場にいらっしゃって、日本語教育、あるいは外国人に対して日本語を教育する立場になろうとしている方々にとっては、多くのノウハウについての学びであったと思います。また、そうではなく、漢字というものが、どのように学習されているかを学びたかった、またはそれに

興味があつていらつした多くの方々にとつても、この場は一つの大きな学びのチャレンジを皆さんに提供したのではないかと思います。それはどういふことかというところ、この場にいらつしやる多くの日本人の方々は、さきほどなたかが、それを当たり前にしているとおっしゃいましたけれど、日本人の頭を作つてきて、日本人の頭でコミュニケーションをしているということですよ。よく国際会議や国際的な議論の場で、日本人はなにか包括的に理解して、漠然としているのは悪口なのですけれども、なにかポイントが西洋人のようでないものいい方、ものの書き方、発表の仕方になつていふという批判があると思うのです。これが字を意味として捉えてしまふ文化と関係がないとはいへない。この文化に魅力を感じてトリーニ先生は山を登つてくださったと思うのですけれど、われわれは今度は反対に、世界と対峙するときに、これで損をしたり、このことを当たり前だと思つて非漢字圏の方々とコミュニケーションしてしまつたりすることがあるのではないか。自分つてなに、漢字をもっている私たちつてなに、漢字をもっている私たちつて、世界に対してどう発信していけばいいか、というような課題を今日のシンポジウムからいただいたのではないかと捉えております。そういう意味で皆さん方、お忙しいなか外国からきてくださったつて発表してくださいましたこと、それから濱川先生、加納先生がとてもよくまとめてくださり、司会がちゃんと司会をしてくださったことにも感謝したいと思います。

最後に一言だけつけ加えさせていただきます。今日、共催という形で名前をだしていただいている国際交流基金日本語国際センターは、外国で日本語を教えていくと、日本語を母語としない先生方（本日の登壇者のなかには私どもの研修を経ていま活躍になられている方も含まれています）に日本語、日本文化、日本語の教育方法についての研修を提供する機関であります。一九八九年にできましたので今年が二十五周年になつており、その間に一万人以上の先生方をお迎えし、送り出して今日に至つております。

また、一番新しい先生方として四十人ほどがここにいらつしています。九月から三月までの半年にわたつて日本に、または北浦和に滞在して、日本語、日本文化、日本語の学習方法についてまなぶ、経験三年以下の若い先生方ですけれど、そういう先生方にとつて、漢字を自分の学習者たちにどのように提供していくか、どういふふう学習してもらふかといううなことは、永遠の課題となつておりますので、そういう意味でも私どもが今日、共催という意味で参加させていただいたことに非常に感謝しております。国立国語研究所にもその点、深くお礼を申し上げます。

本日は長時間にわたって、熱心にご参加くださいまして、ほんとうにありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

NINJALフォーラムシリーズ6  
国立国語研究所 第8回NINJALフォーラム

# 世界の漢字教育

## 日本語漢字をまなぶ

2017(平成29)年1月20日

発 行：人間文化研究機構 国立国語研究所  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
TEL 042-540-4300 FAX 042-540-4333  
<http://www.ninjal.ac.jp>

制 作：株式会社クバプロ



国立国語研究所